

練馬城址公園の位置付けとこれまでの歩み

》 東京都の公園整備について

東京都では、「2050東京戦略」等を踏まえ、水と緑溢れる東京の実現と災害に強い都市の構築のため、公園や緑地の整備を進めています。

東京都と区市町は、優先的に整備を着手する区域を定める事業計画である「都市計画公園・緑地の整備方針」を策定し、都市計画公園・緑地の計画的・効率的な整備を促進してきました。

練馬城址公園は、「都市計画公園・緑地の整備方針」において、優先的に事業を進める予定の「重点公園・緑地」として位置付けられています。

出典：東京都都市整備局ホームページ「都市計画公園・緑地の整備方針」及び東京都建設局ホームページ「練馬城址公園の整備」より抜粋

》 練馬城址公園の土地利用の変遷

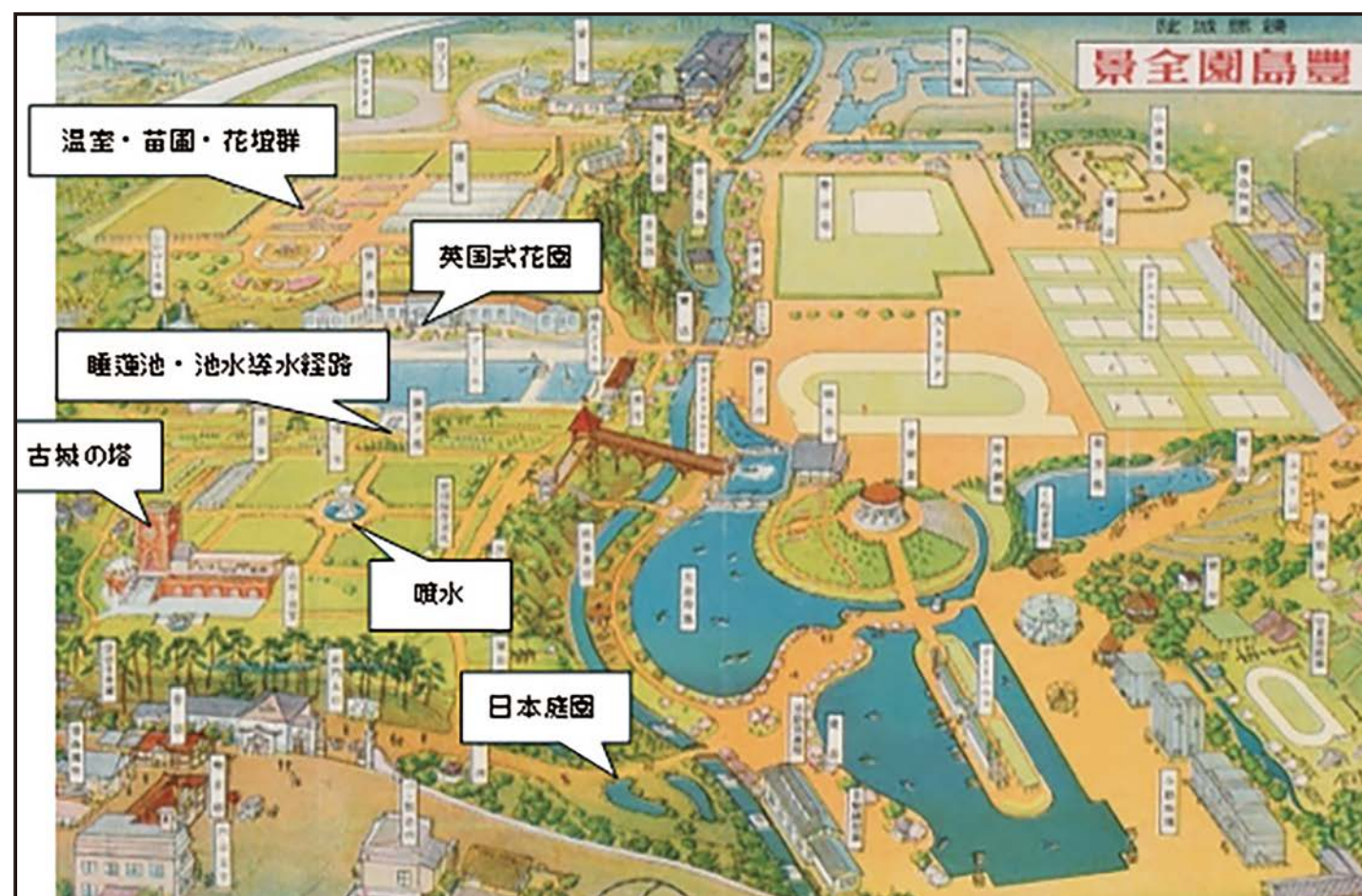
時 代	状 況	土地の使われ方
鎌倉～室町時代	練馬城	北方に石神井川が流れ、急崖によって自然の防壁を形成。田園や葦の沼地が広がっていた一帯に練馬城が築かれた。
室町時代以降	耕地、屋敷地	城が落ち城郭としての役目を終え、のちに耕地へと転用。周辺の村も戦乱で一時荒廃したが、16世紀半ばには再び耕地として利用され、耕地の他屋敷地となった。
大正～平成時代	練馬城址豊島園～としまえん	創業者の藤田好三郎の「市民のための運動・園芸施設として開放したい」という思いにはじまり、閉園する令和2年（2020）まで継承された。



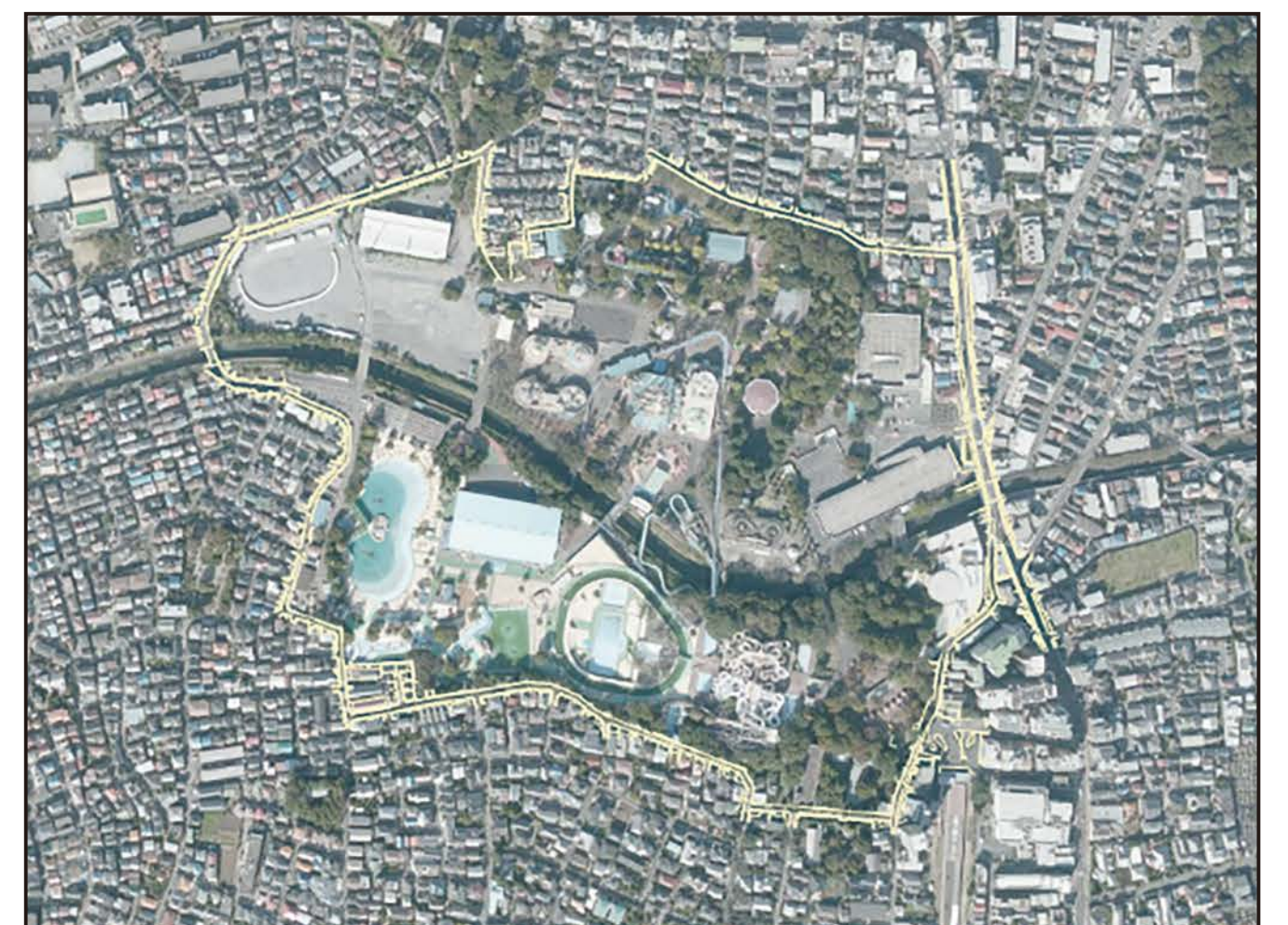
●1927(昭和2)年の写真(東土塁上の北から南を望む)
台地北側に起伏が残っているのが分かる。



●1927(昭和2)年の写真(北東外側から東土塁南部を望む)
手前に石神井川が流れ、南に向かい地面の起伏が見られる。



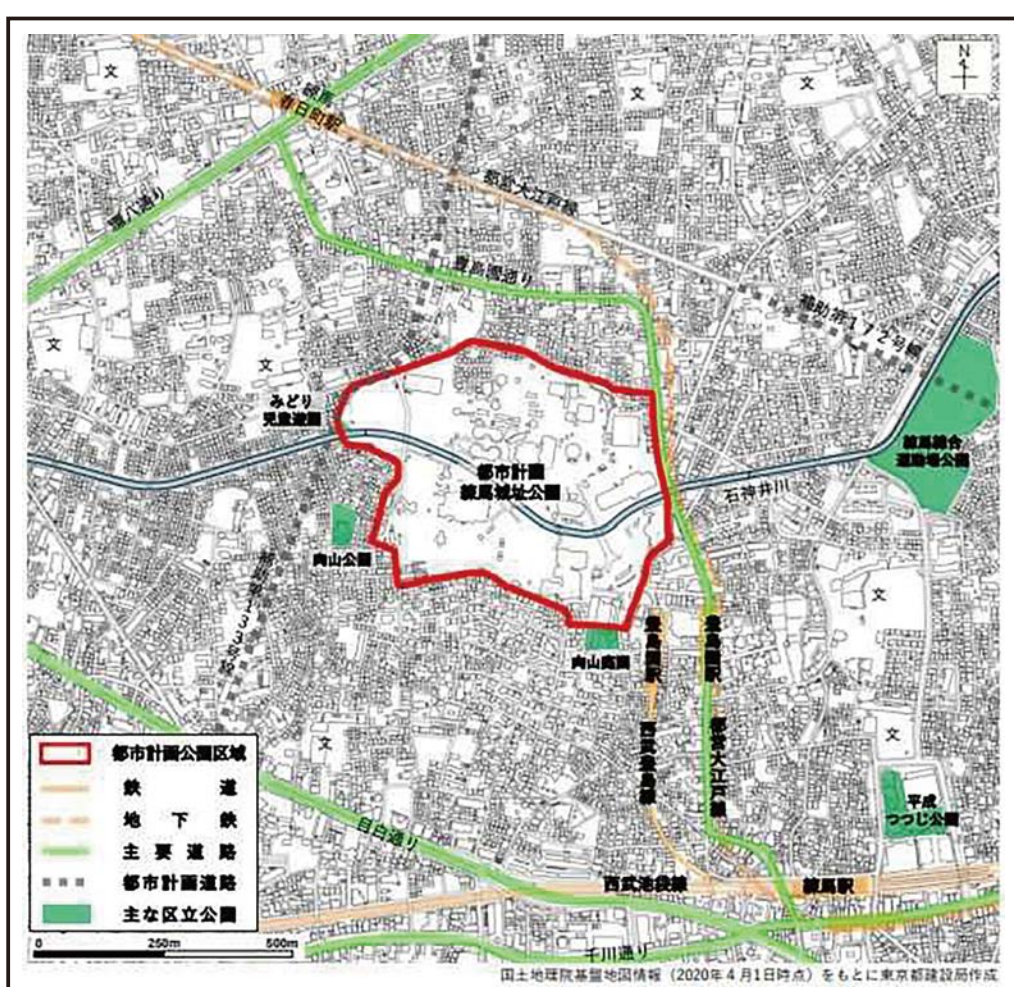
●開園後約6年(1932年)当時の施設・遊具などの配置図
英国式庭園や日本庭園、噴水、古城の城等が設置されている。古城の城は、花園を眺め休憩・食事できる機能に加えて、英国風な繋がり・関係性から設置された。



●閉園直前の2019年の航空写真
これまで園内にあった乗り物も淘汰され、最終的な施設構成の様子。周辺には、立体駐車場、温浴施設等が加えられた。

》 練馬城址公園整備のこれまでの歩み

- 昭和32年 都市計画 告示
令和 2年 東京都公園審議会
諮問(6月)→答申(令和3年4月)
3年 「都市計画練馬城址公園の整備計画」を策定(5月)
都市計画公園事業認可(6月)
当初開園区域の整備に関するオープンハウス
(石神井川左岸西側、右岸東側等)
4年 整備工事(石神井川左岸西側、右岸東側等)
5年 一部開園(石神井川左岸西側、右岸東側等)
6年 ワークショップ(石神井川より南側のエリア)
7年 ワークショップ、基本設計(石神井川より南側のエリア)



●都市計画公園・緑地の整備方針
優先的に事業を進める予定の「重点公園・緑地」に選定。



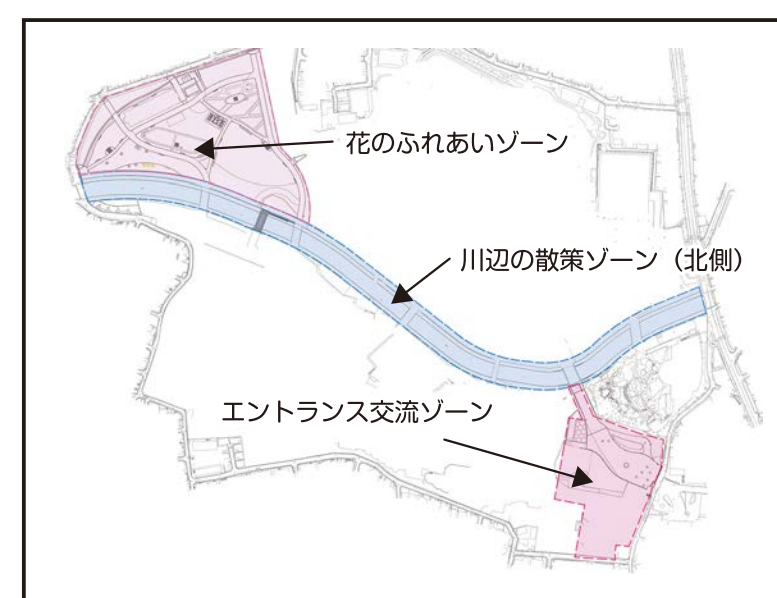
西側のエントランス付近



道具広場



樹木



既設開園地の位置図



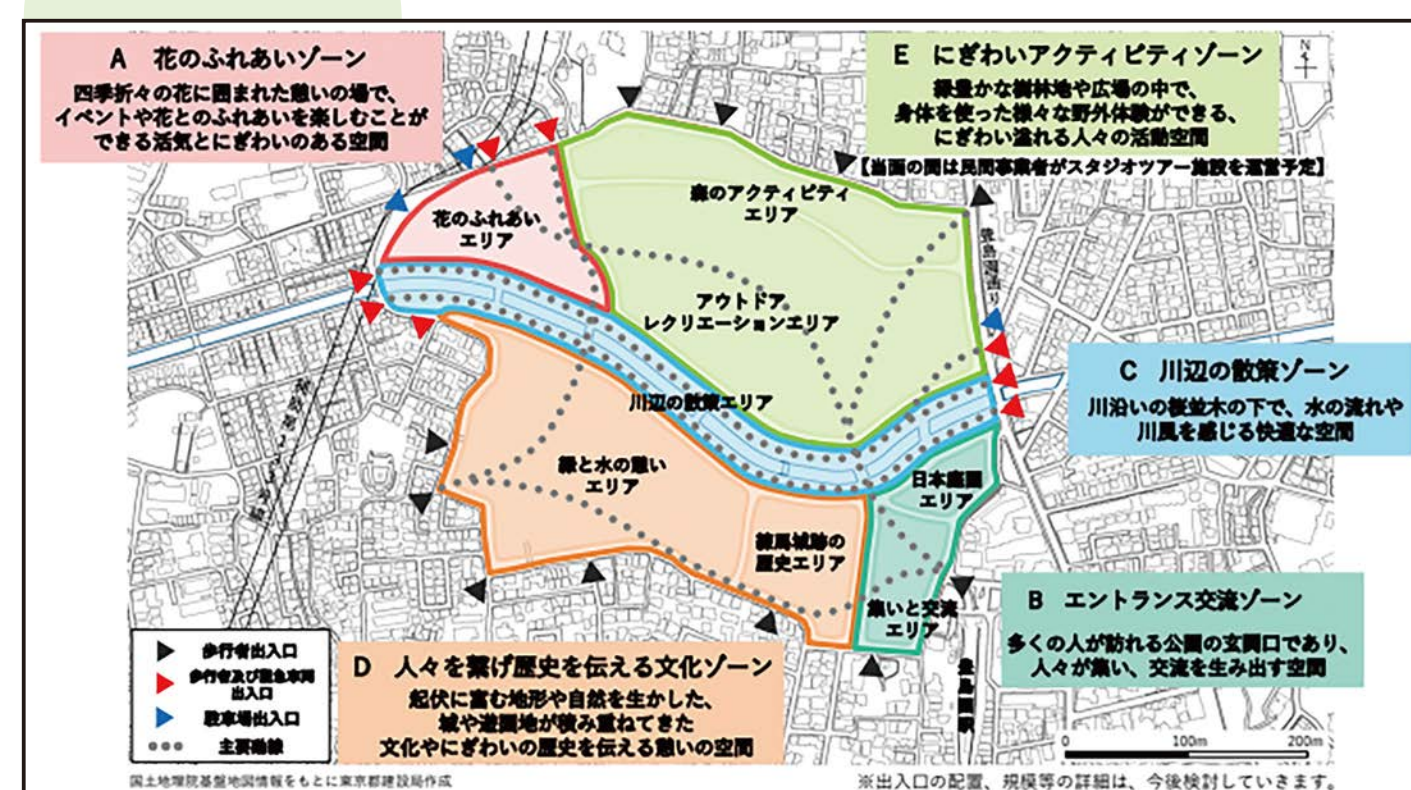
案内板



ガーデニングコーナー

●整備計画のゾーニング

5つのゾーン毎の機能に応じたエリアを設定。



●既設開園地の写真(令和5年5月開園)

エントランス交流ゾーン、川辺の散策ゾーン、花のふれあいゾーンが開園。(一部整備中)



ワークショップ検討の位置図



ワークショップ

●ワークショップ検討の写真(令和8年2月実施の第5回)

石神井川より南側エリアについて、整備内容を検討。

練馬城址公園の整備計画

》練馬城址公園のテーマと3つのコンセプト（「都市計画練馬城址公園の整備計画」より引用）

本公園は、土地の歴史やその立地特性から、下記のテーマと、これを実現する3つのコンセプトを設定しています。

テーマ

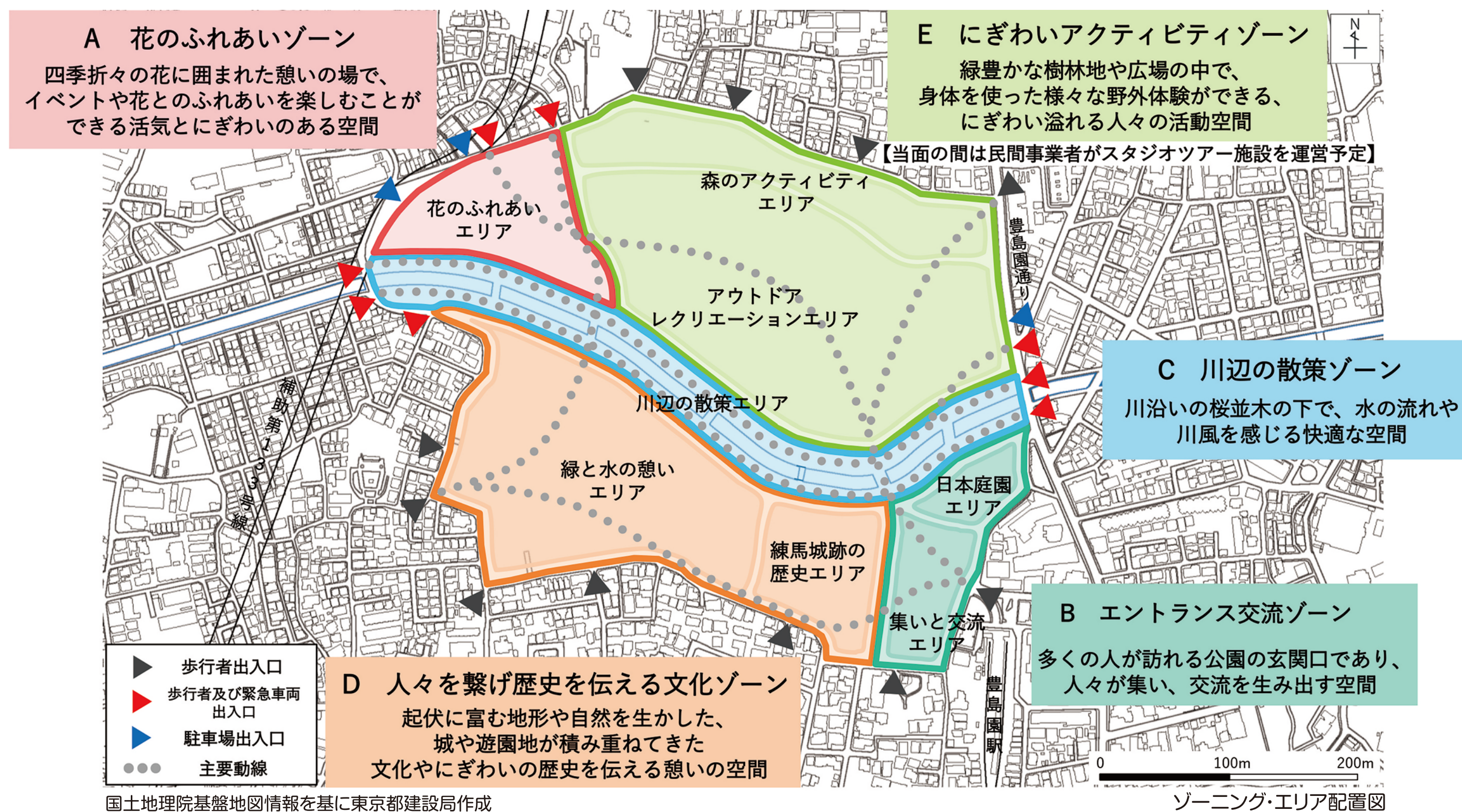
都民に親しまれてきた土地の歴史・風土、緑豊かな自然を生かし、
多様な主体と連携して、社会の変化に応えながら創りあげる公園

コンセプト

- 1 豊かな緑と川のせせらぎを感じる中で、人々が憩い、安らぐことのできる空間づくり
- 2 人々が迅速に避難でき、地域の防災機能の向上に繋がる拠点づくり
- 3 都民に親しまれてきた土地のにぎわいを醸し出し、多様な人々が集い交流を生む空間づくり

》公園全体のゾーニング（「都市計画練馬城址公園の整備計画」より引用）

テーマ、コンセプト及び計画区域の空間特性等を踏まえ、「緑と水」「広域防災拠点」「にぎわい」の機能発現に必要な要素を取り入れた5つのゾーンと、ゾーン毎に機能に応じたエリアを設けます。



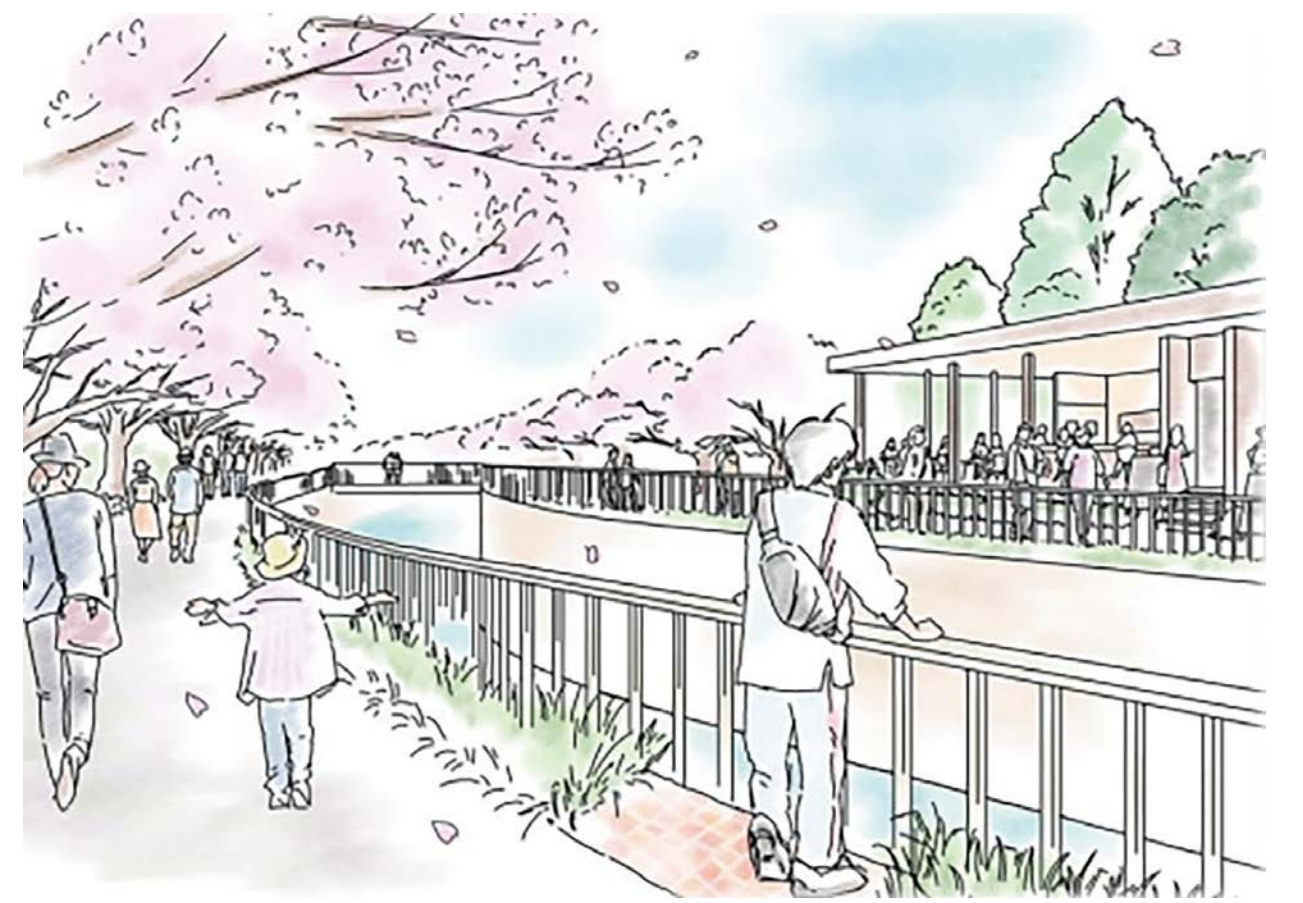
A 花のふれあいゾーン



B エントランス交流ゾーン



C 川辺の散策ゾーン



D 人々を繋げ歴史を伝える文化ゾーン



E にぎわいアクティビティゾーン



住民参加による公園整備の検討

》 練馬城址公園ワークショップ[石神井川より南側のエリア] (東京都東部公園緑地事務所練馬城址公園パークニュースVol.5より抜粋)

第
1
回2025年
1月18日^土

練馬城址公園ワークショップ 現地見学・アンケート

現地見学を通して、整備予定地にある魅力や課題を確認することができた。そのうえで練馬城址公園をどのような公園にしていきたいか、幅広いアイデア出しを実施。

第
2
回2025年
2月16日^日

練馬城址公園ワークショップ 樹木・歴史・水辺・配置について

参加者のアイデアを元に「練馬城址公園をどのような公園にしていきたいか」の意見をすり合わせ、具体的な整備イメージとして共有。

第
3
回2025年
10月18日^土

「みんなの過ごし方×将来アイデア会議」 ～配置イメージ図をもとに過ごし方のアイデアを出し合う～

「誰が・いつ・どこで・何をして過ごすか」を考え、公園の具体的な使い方について意見を出し合った。使い方が具体化されたことで、整備すべき施設や設備を検討。

第
4
回2025年
11月16日^日

「みんなの過ごし方×将来アイデア会議」 ～過ごし方から検討案を考える～

これまでの意見を元に作成された基本設計案を、ワークショップ参加者みんなで確認し、目指す公園の姿に近づけるためにさらに具体化させた過ごし方について議論。

第
5
回2026年
2月11日^水

「みんなの過ごし方×将来アイデア会議」 ～第二回を踏まえた検討案の確認と今後の流れを説明～

これまでの意見を振り返り、公園の基本設計案を確認するとともに、今後実現したい活動や取組について話し合った。自然や歴史を大切にしながら、地域の人同士がつながり、継続的に関われる公園づくりを目指す方向性を共有。



ワークショップ検討の位置図

》 令和7年度のワークショップで確認できた設計方針 (東京都東部公園緑地事務所練馬城址公園パークニュースVol.5より抜粋)

公園全体

- この地ならではの歴史・自然・水辺の体験を公園の中心に置く
- 園内の樹木・自然との関わりを活かして遊べる場所を作る
- 公園を楽しむビューポイントや案内機能を充実させる
- 災害時に防災機能を発揮し、安全を確保できる公園

石神井川
・水辺

- 川遊びや生物とのふれあいなど、親水体験を大切にする
- 水遊びの谷は、“夏は水遊び、冬はイベントやライトアップ”のように年間通して楽しめる場とする

花 壇

- 四季折々の花を楽しむ公園
- 土地の歴史を大切に花壇の形や設えとする
- 無理なく美しさを保てる

草地広場
・修景池

- 広がり大切に空間とする
- 暑い時期にも過ごせるよう日陰を確保する
- 休憩・ピクニック・読書など、滞在できる場とする
- のびのびと体を動かす利用ができる場とする
- 災害時には、避難場所として機能する空間とする

外周緑地
や斜面林

- 木陰の園路で散策や休憩などを楽しむ場とする
- 自然植生の名残がある斜面林は手を入れず保全する
- 落ち葉対策のため、境界沿いの木は公園内側へ計画的に移動する

管 理 所

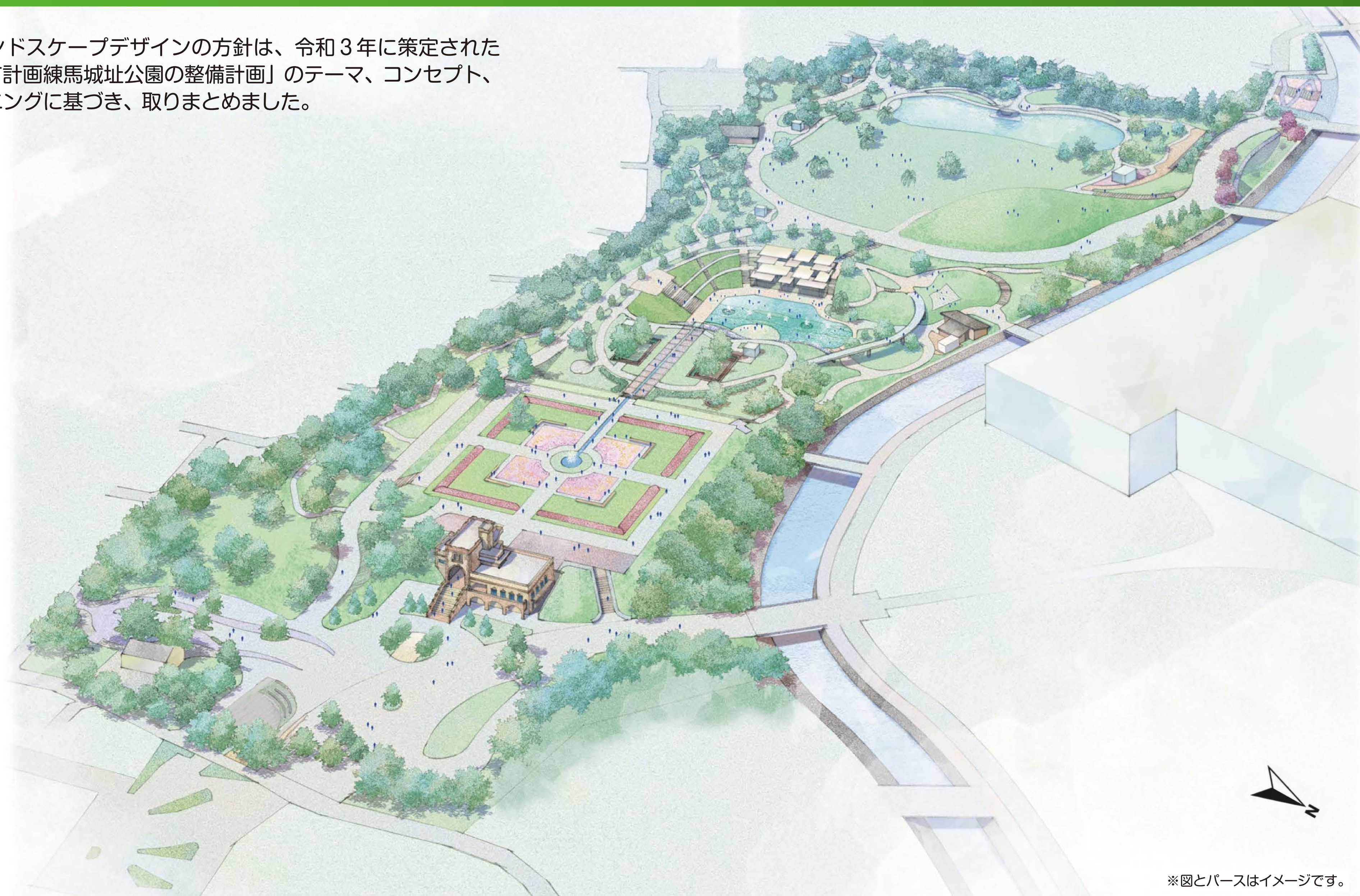
- 利用者が自由に使える休憩所を設ける
- 既存建物のデザインを新しい管理所に取り入れて生まれ変わらせる
- 一部の部材は活用し、デジタルデータ等でも保存するなどして歴史を継承していく



ランドスケープデザインの考え方

» 練馬城址公園ワークショップ

ランドスケープデザインの方針は、令和3年に策定された「都市計画練馬城址公園の整備計画」のテーマ、コンセプト、ゾーニングに基づき、取りまとめました。



※図とパースはイメージです。

» ランドスケープデザイン 4つの方針

①空間の広がりが見通し

景観軸と高低差を生かした視点場により、連続性と広がりのある立体的な風景を創出します。

②地形がつくる水の繋がり

水の繋がりを見える化し、高所から石神井川へ注ぐ土地本来の水の流れを演出します。

③歴史の継承

歴史的要素を公園施設で再現し、土地の記憶を継承する空間を創出します。

④風景の展開

東から西へ、人工的な空間から自然度を緩やかに高めた風景の展開を創出します。

» ランドスケープデザインの手がかり

地形

a



園内の谷地形（西の谷）



b



エントランス（東の谷）

c



どんぶり坂の谷地形

2つの浸食谷に挟まれ、石神井川に削られた舌状台地は城に適した自然の地形でした。

構造物



としまえんの「古城の食堂」やプール等、多くの人に親しまれた施設がありました。



樹木



古くからこの地に自生していたアカマツや、としまえん時代の面影が感じられるヤシ等の樹木が残っています。

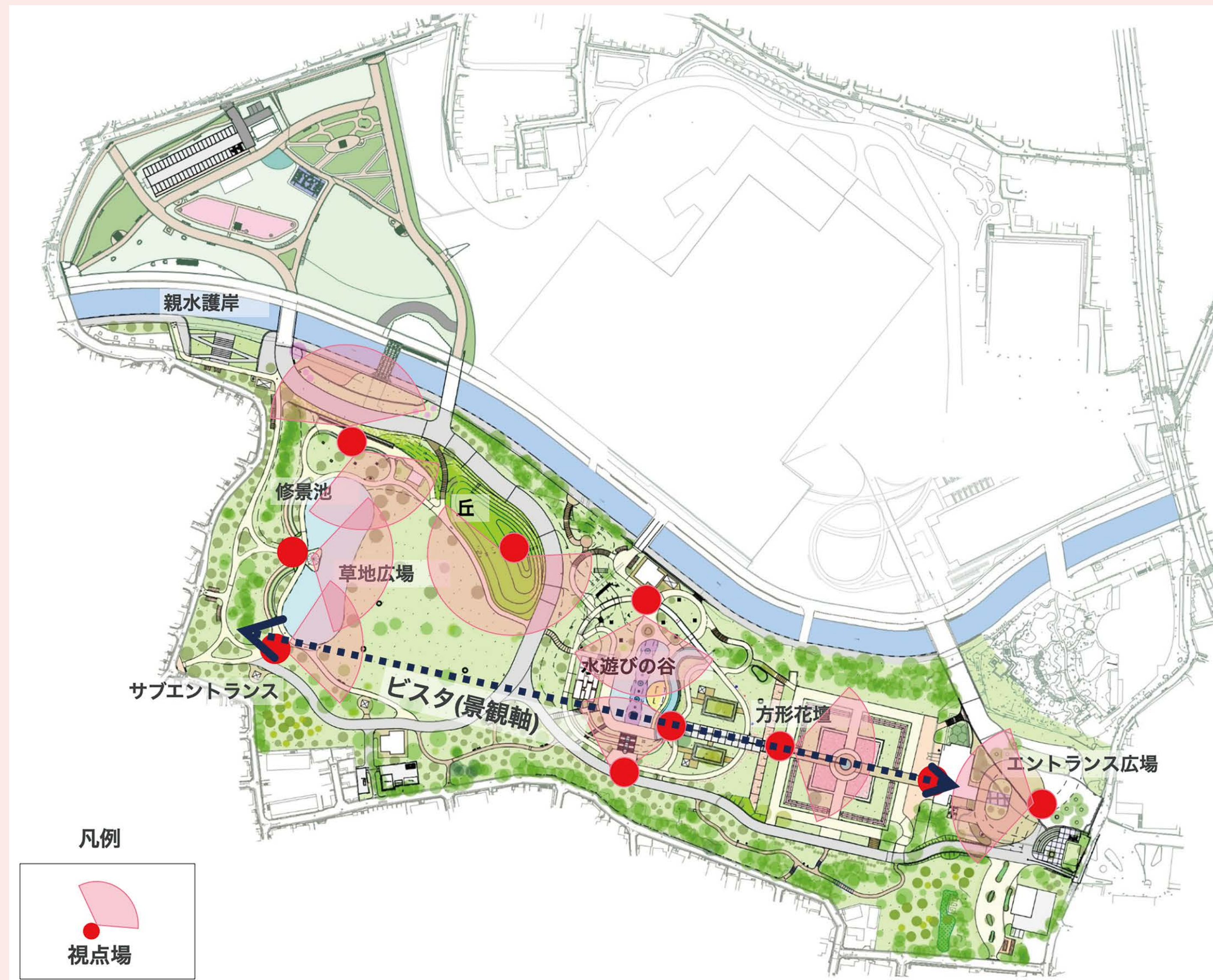


ランドスケープデザインの方針①②

※図とパースはイメージです。

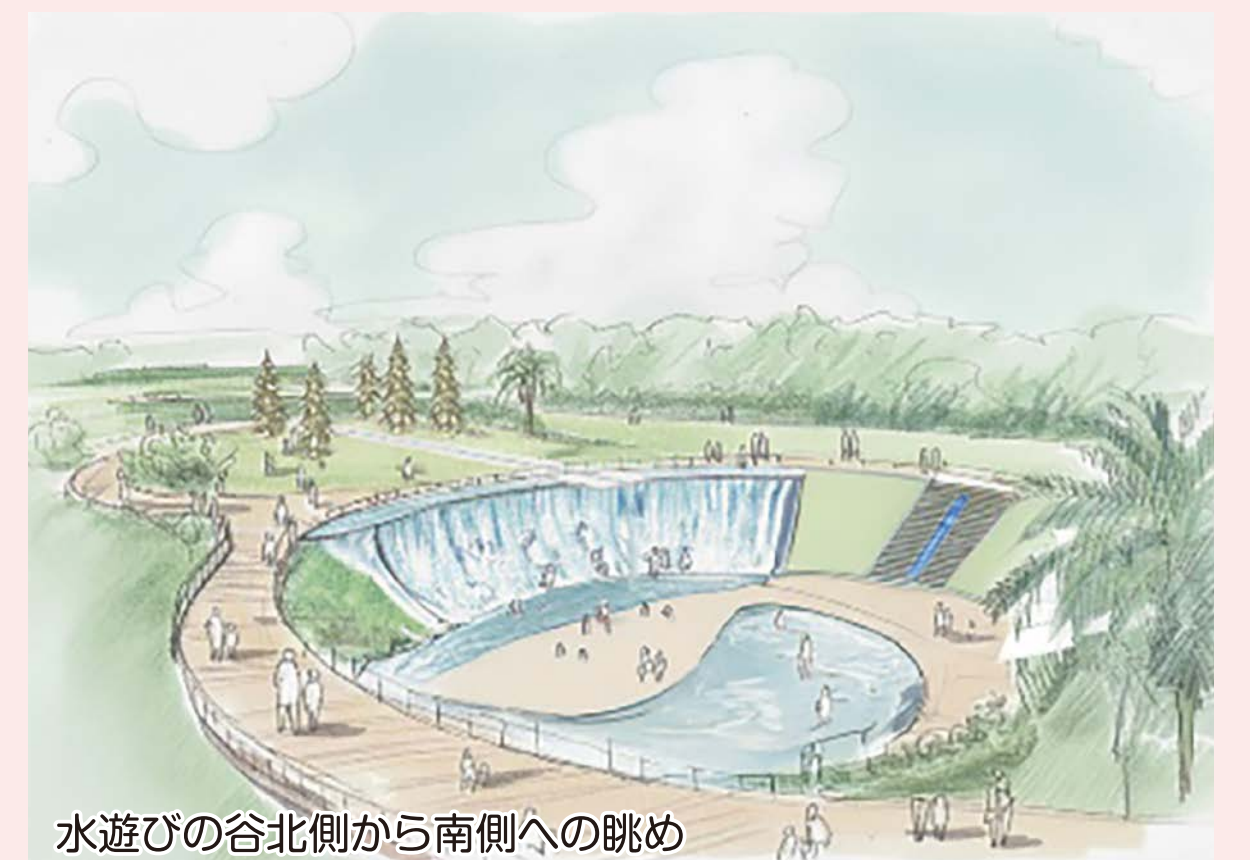
» ①空間の広がりが見通し

空間に連続性を生み、広がりを感じられるよう、東西方向に見通せる景観の軸（ビスタ）を通します。園内の各所に高低差を生かした視点場を設け、風景を一体的かつ立体的に見せます。



管理所展望台から西側への眺め

高低差のある地形を活かし、見通す、見下ろす、見上げる視点場を設けて印象的な景観を創出します。



水遊びの谷北側から南側への眺め

樹林や噴水、建築物などが視線を引き付け、歩きながら景色の移り変わりを感じられます。

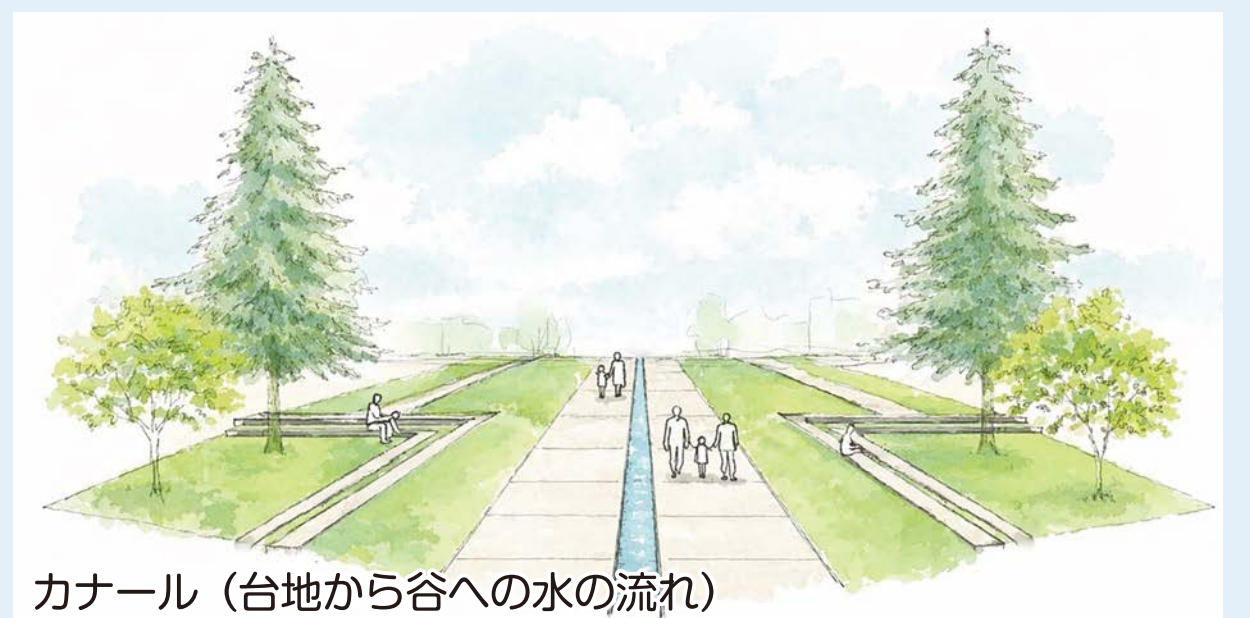
» ②地形がつくる水の繋がり

水の施設を連ね、台地から谷、谷から石神井川までの水の繋がりと流れを空間に顕在化させます。

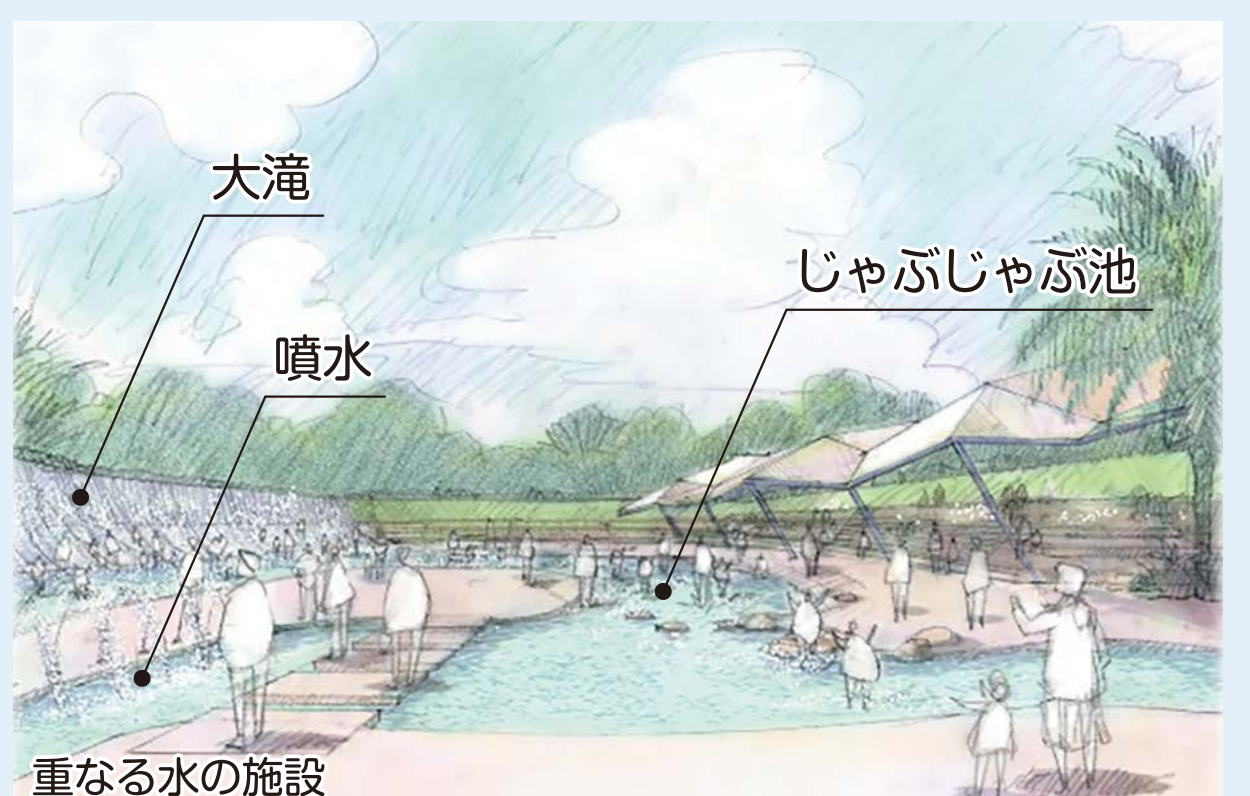


戸野琢磨の豊島園の設計図

既存の谷-台地-谷の地形を活かします。



カナル(台地から谷への水の流れ)



重なる水の施設

台地から谷まで水の施設を連ね、水のつながりをつくり、地形としまえんのプールがあった記憶を受け継ぎ、にぎわいの場とします。

ランドスケープデザインの方針③④

※図とパースはイメージです。

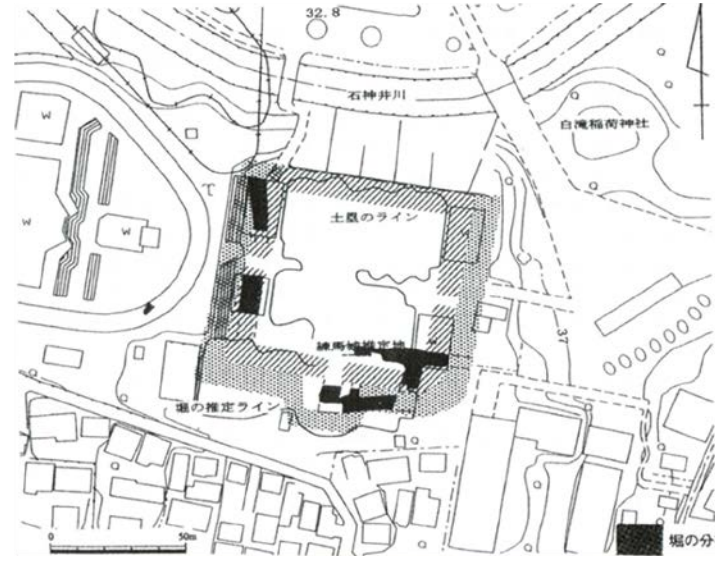
» ③ 歴史の継承

練馬城や練馬城址豊島園、としまえんがあった土地の歴史を尊重し、既存地形を活かします。また練馬城の土塁・堀や練馬城址豊島園の花壇、としまえんのプール跡などをモチーフとしてデザインに取り入れ、記憶を継承します。

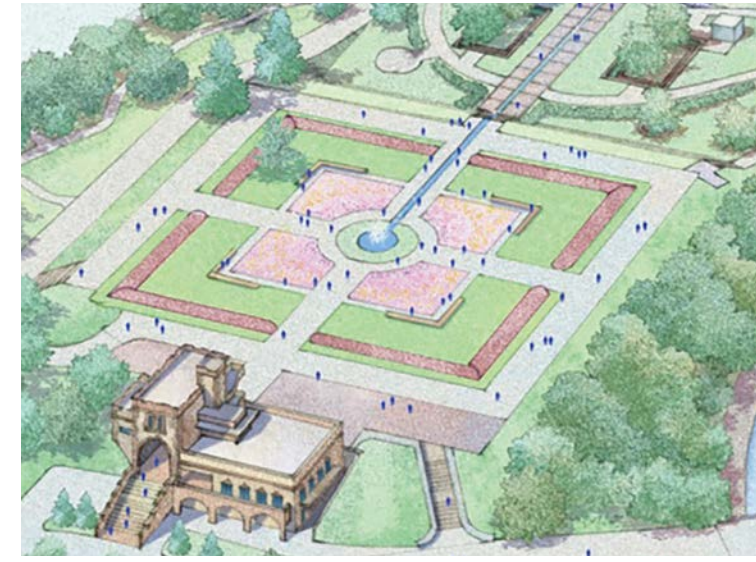
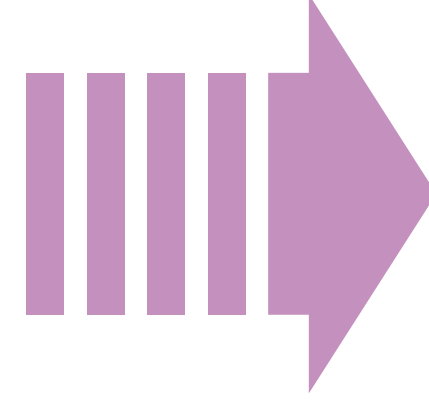
1) 練馬城の記憶

石神井川に面した舌状台地と二つの谷を、この土地の骨格として活かします。練馬城や練馬城址豊島園の遺構を、方形花壇や園路動線、植栽、修景池などの空間要素に変えて表現します。

継承の方法(例)



地形・城郭構造等を…



方形花壇・園路動線等で継承

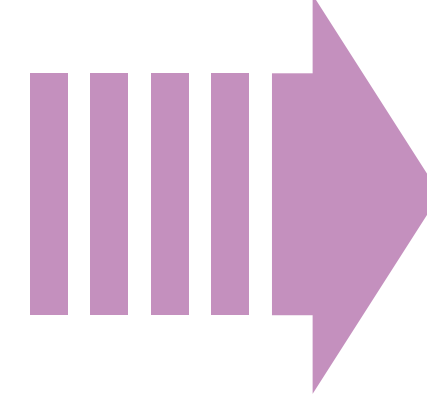
2) としまえん初期の建物“古城の塔”の記憶

古城の塔は意匠を踏襲して新しい管理所として生まれ変わり、記憶を継承します。大階段と塔の主構造、尖塔アーチや石造風の意匠などのゴシック様式をモチーフとして引き継ぎます。

継承の方法(例)



大階段・ゴシック様式の外観を…



新管理所の意匠・機能等で継承

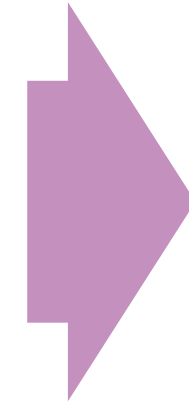
3) としまえんのプールの記憶

流れるプールの曲線的な動線、花壇、ヤシなど、毎夏のにぎわいを想起させる要素を公園の風景に取り入れます。レクリエーションの記憶を、新しいにぎわいの場として継承します。

継承の方法(例)



プール動線・花壇・ヤシ等を…



水辺・水景・植栽・にぎわい等で継承

» ④ 風景の展開

埋蔵文化財包蔵地である東側は、練馬城跡・管理所（ゴシック風の建物）・向山庭園等と呼応する「クラシカル」で落ち着いた空間に。草地・樹林・水辺が広がる西側は、「ナチュラル」で開放的な空間に整えます。北西側の既開園地は、将来の社会変化や利用ニーズに応じて柔軟に更新する可変性のある空間として位置づけ、段階的な整備を通じて、公園全体の風景を一体的に繋げていきます。この風景の展開により、土地の歴史を感じる東側から自然を楽しむ西側まで、公園に物語のある回遊体験を生み出します。

既開園地

社会の変化と将来整備に呼応し、一体的な空間へ更新していく。

【西側の整備イメージ写真】



イギリス：ストウヘッド



イギリス：パインズヒル

西:風景式・ナチュラル



【東側の整備イメージ写真】



イギリス：キューガーデン



イギリス：ブレナム宮殿

東:整形式・クラシカル

ゾーニング

ランドスケープデザインの4つの方針に基づき、地形や利用目的に応じたエリアを設定し、場所により異なる景色や楽しみの創出を目指します。

花のふれあいエリア

四季折々の花に囲まれた憩いの場で、イベントや花とのふれあいを楽しむことができる活気とにぎわいのある空間。

石神井川遊びエリア (エリア⑥)

水辺に近づくことができ、憩いや滞留のための空間も整備。水に触れる体験機会も創出する。

草地広場エリア (エリア④)

多目的に使える広場。草地や丘、修景池や四阿等で構成される、風景式庭園のような空間。高低差を生かし、周辺一帯を見渡せる貴重な視点場も創出。災害時には避難場所として機能発揮するオープンスペース。

サブエントランス (エリア④)

西側の出入口。住宅地へ配慮し、植栽豊かな静かな空間で始まり、草地広場へつながる。植栽によって視野が「絞りから開く」ような効果をつくり、公園の広がり演出する。

花のふれあいエリア

石神井川遊びエリア

スタジオツアー

樹林エリア

草地広場エリア

サブエントランス

水遊びの谷エリア

斜面林エリア

歴史と花畑エリア

樹林エリア

エントランス

斜面林エリア (エリア⑤)

崖線の地形と樹林を保全して、生物多様性保全の場とする。自然度の高い植生のため、人為干渉を抑え、自然遷移の場とする。

水遊びの谷エリア (エリア③)

かつての水の記憶を想起させる水景施設を核に広場を構成し、ミストやイベント広場で年間通じたにぎわいを創出。

歴史と花畑エリア (エリア②)

土地の歩んできた歴史を、練馬城址の地形と方形花壇・眺望の組合せで表現する。方形花壇の花や芝生で彩った落ち着いた空間が、来園者を迎える。

エントランス (エリア①)

練馬城址公園の入口。案内・管理機能の中心地。イベントを想定した舗装広場を核に、休憩施設を多数配し、にぎわいを生み出す。

樹林エリア (エリア⑤)

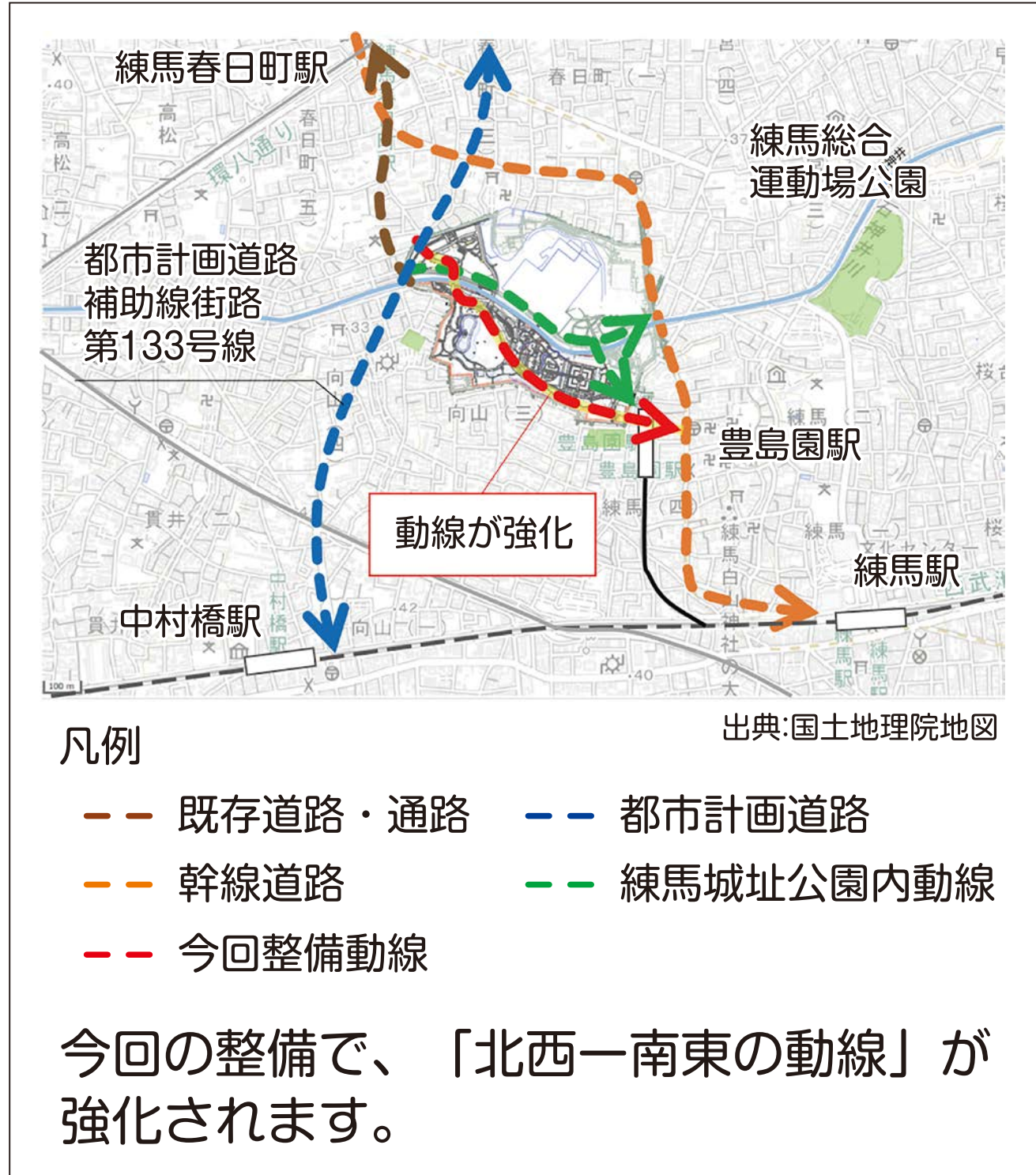
近隣への影響に配慮しながら豊かな樹林を育成し、緑陰や防火、生物多様性の保全といった機能発揮により安全・安心な空間とする。

動線計画

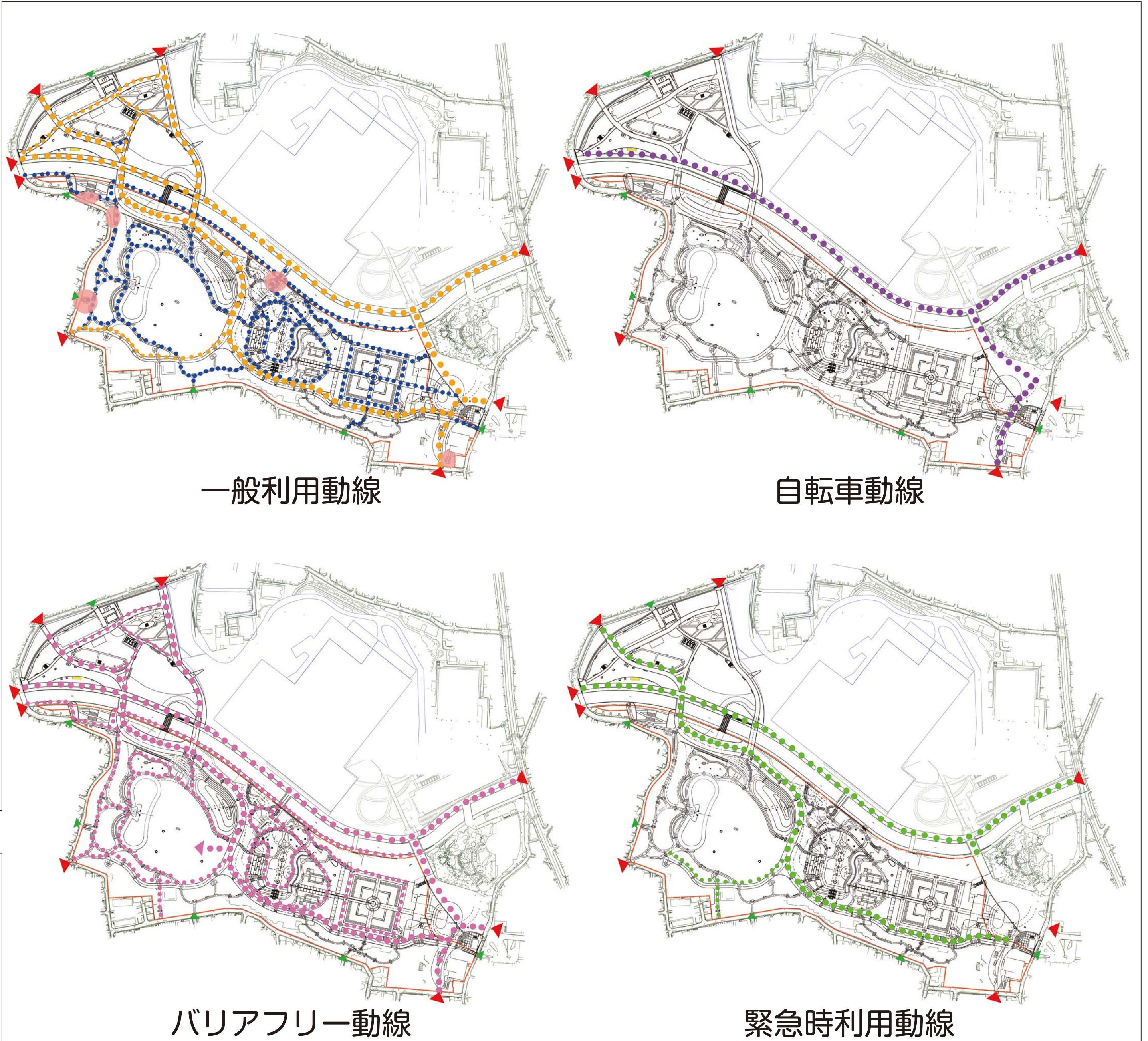
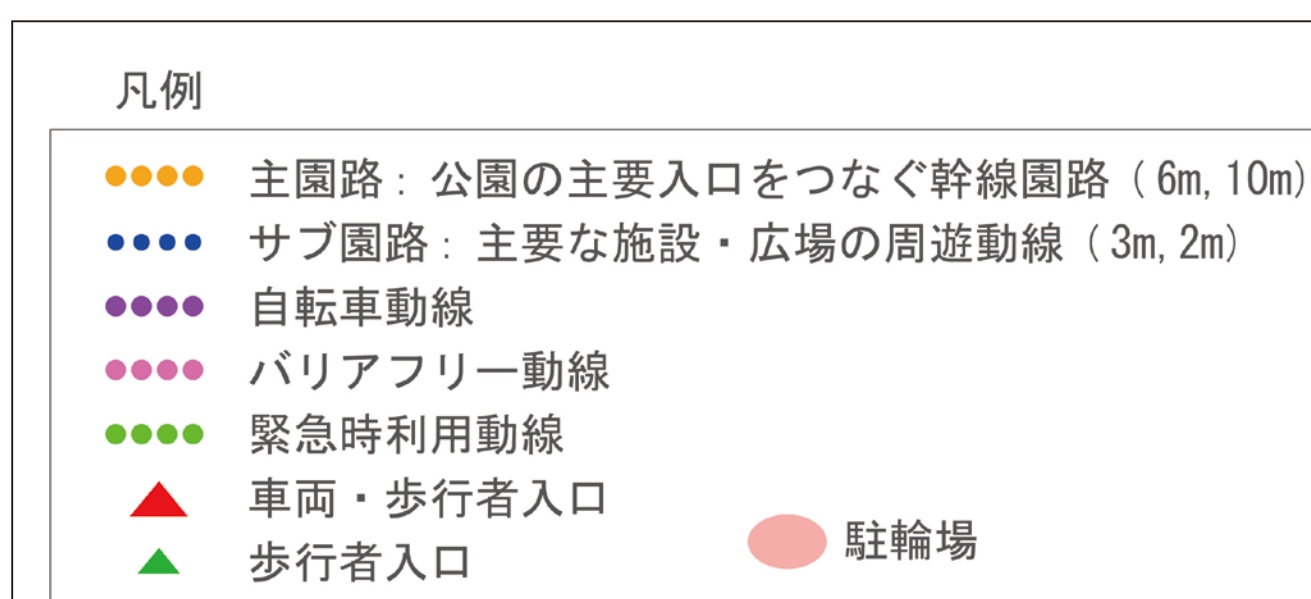
練馬春日町駅～公園～豊島園駅を双方向で結ぶ広域的な動線を重視します。

公園の中をすることで駅とまち、まちとまちが滑らかにつながることを目指します。

園内は歩行者、自転車、車いすなど多様な利用者が、それぞれ安全かつ円滑に移動できるように動線を整理します。



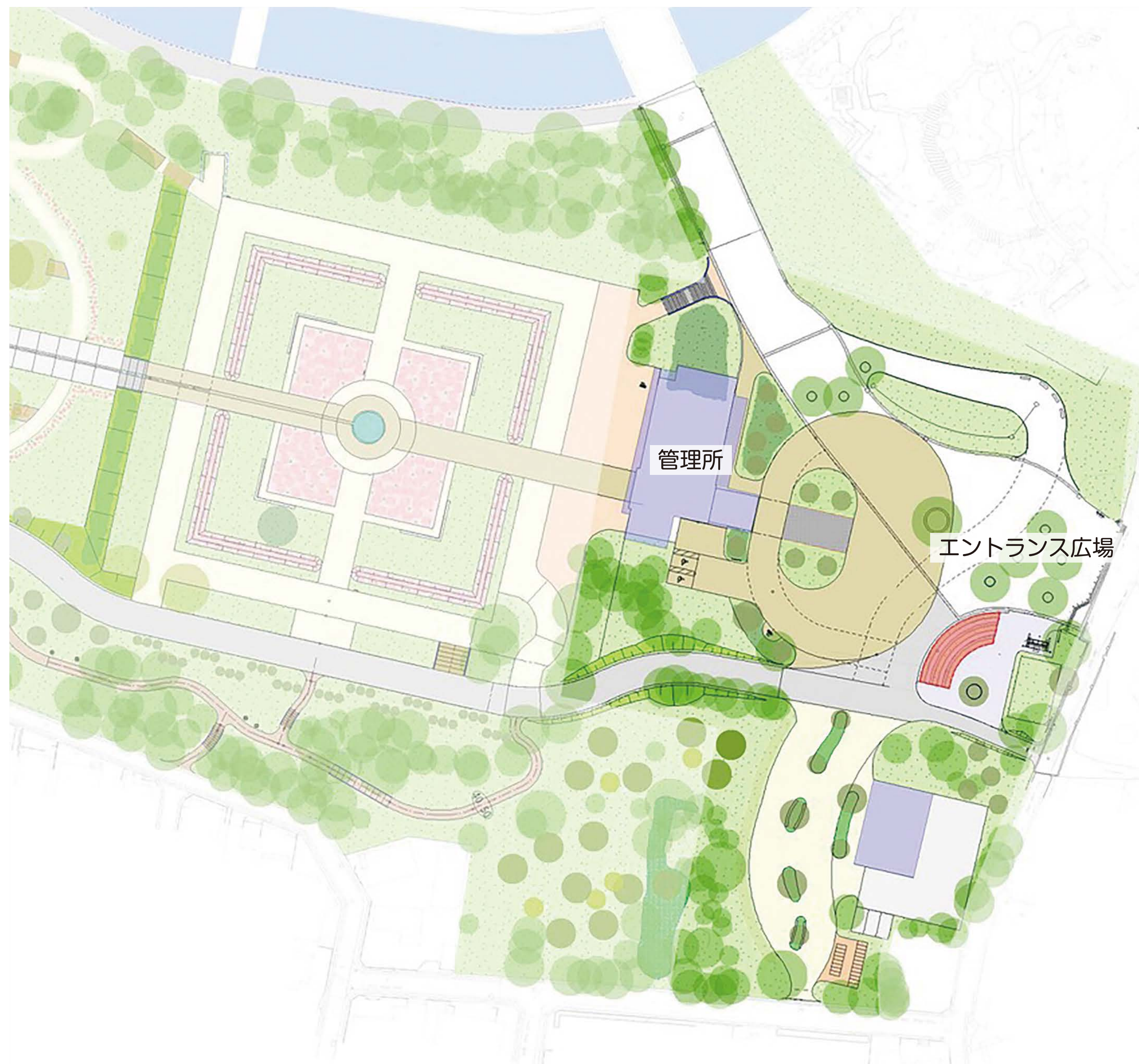
広域の動線イメージ



エントランス（エリア①）

※図とパースはイメージです。

練馬城址公園の入口として多くの来園者を迎え入れ、案内や休憩、情報発信機能を発揮し賑わいの中心となります。



エントランス広場～管理所のイメージ

» 管理所



古城の塔の特徴や部材を継承し、新しい管理所として今後もながく愛される建物として生まれ変わります。



公園全体の管理機能の中心であり、また公園利用者にとっては自由に休憩や飲食、情報収集をできる施設となります。災害時には情報発信拠点や要配慮者の利用スペースを設けます。

» エントランス広場

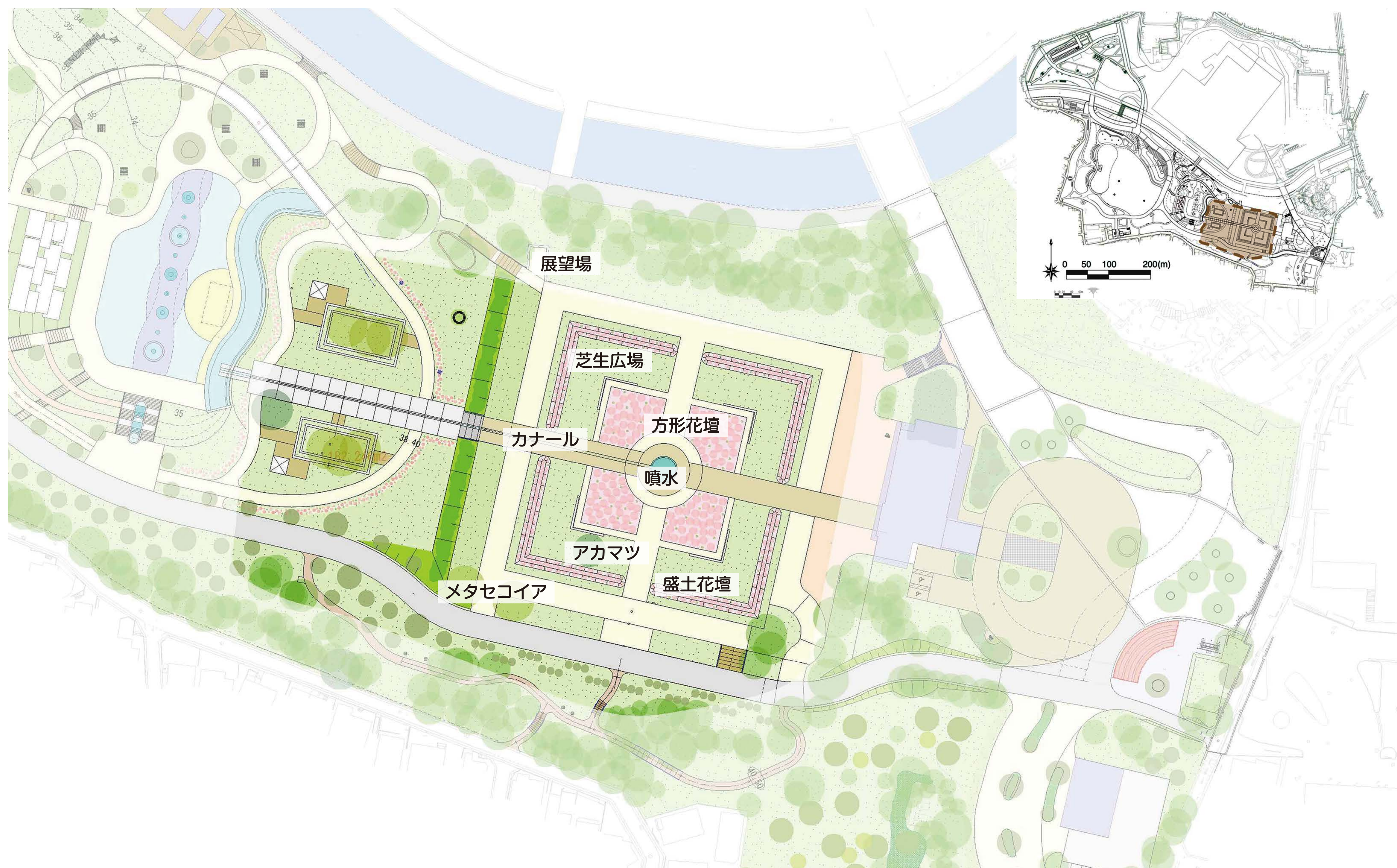


管理所前の広場は、既存の樹木・園路を活かしながら、豊島園駅側からの来園者をシームレスに迎え入れます。緑陰や座れるスペースを多数設け、快適に過ごせる滞留空間とすることで、イベント利用を促し、地域ににぎわいを生み出す空間とします。

歴史と花畑エリア（エリア②）

※図とパースはイメージです。

土地の歩んできた歴史を、地形と方形花壇、眺望の組み合わせで表現し、落ち着いた空間をつくり来園者を迎えます。



» 方形花壇

練馬城の城郭や、練馬城址豊島園時代の英国式花壇の記憶を表現する、方形の花壇をつくります。

花壇の外周は、練馬城の土塁・空堀がイメージされる盛土花壇やレインガーデンを取り入れます。盛土花壇を設け、視線を止めることで防御線や囲まれ感を演出します。

花壇は中心に向かうにつれて花への没入感を演出します。通年で花が楽しめる花壇を目指し、多年草を組み合わせた花壇づくりを行います。



» 噴水・カナル

方形花壇の中心に噴水を配置し、噴水から続くカナル（水路）を設ける事で、水のつながりを表現します。

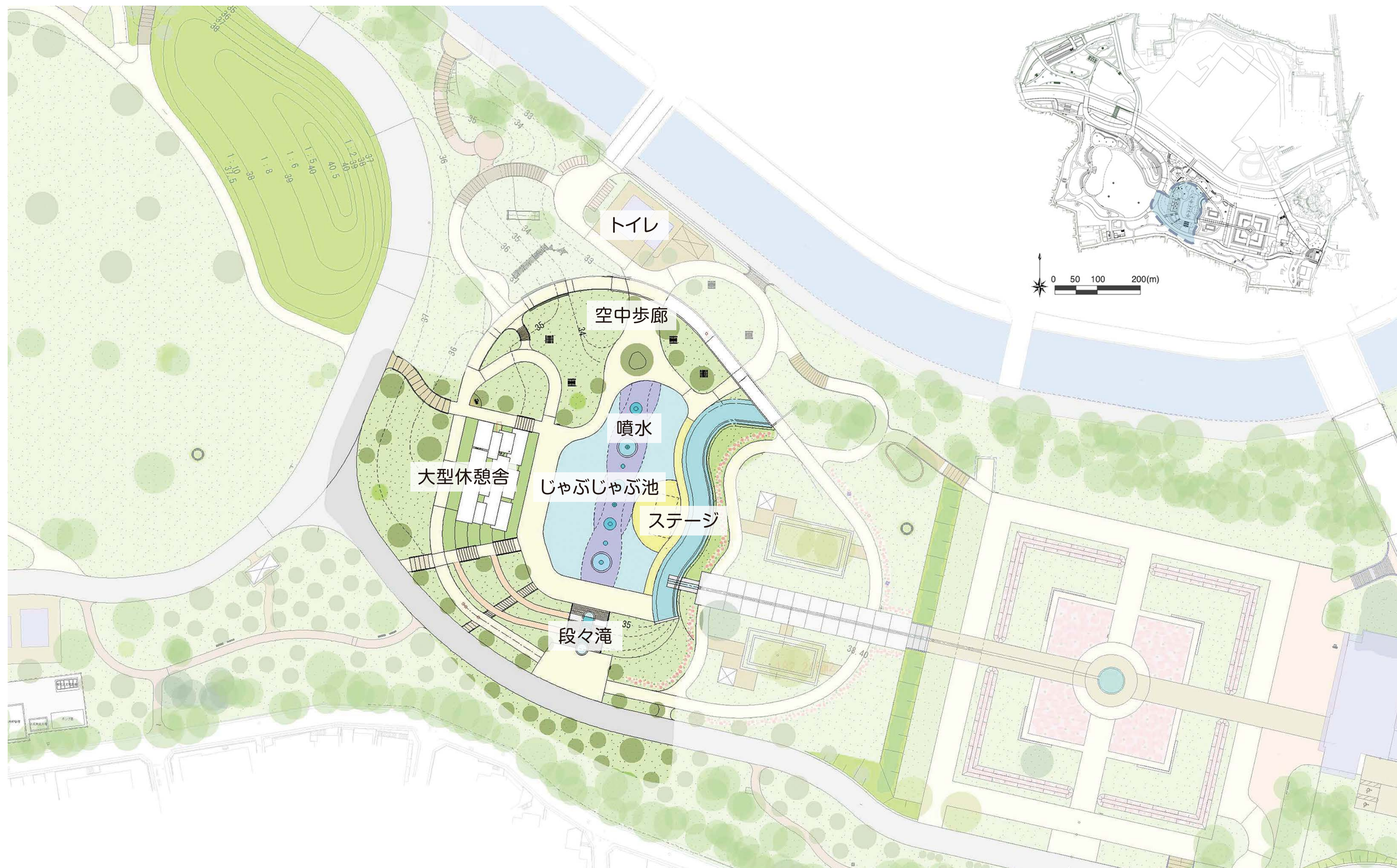
既存樹木を活かした計画とし、大きく育ったアカマツとメタセコイアは保存します。



水遊びの谷エリア（エリア③）

※図とパースはイメージです。

水が集まる谷地形と、としまえんのプールの記憶を受け継ぎ、水景施設を核としたにぎわいの場とします。



》大滝・段々滝・じゃぶじゃぶ池

地形の高低差を利用し、水が谷へ向かって集まり、石神井川へ流れていく様子を大滝や段々滝、じゃぶじゃぶ池などの遊び場として表現します。

谷の底にあたる場所には、浅い水深で子どもから大人まで楽しめる、じゃぶじゃぶ池を配置します。池の中にステージを設け、大滝が背景となるイベントの場とします。

井戸水を利用した遊び空間としますが、ろ過、滅菌の循環水を利用し、安心して遊べる場所とします。



》大型休憩舎・トイレ

水遊びの見守りやステージの観覧席を想定し、日差しや雨から来園者を守る大屋根空間を計画します。災害時の一時待機の場としても想定します。小さい屋根を重ねることで、通風や採光を確保し、視線の抜けをつくり、圧迫感を抑えたつくりとします。

水遊び場の近くにトイレを設け、利用しやすい施設とします。



草地広場エリア・サブエントランス（エリア④）

※図とパースはイメージです。

多目的に使える草地広場を中心とし、丘や修景池を配置した風景式庭園をイメージしたエリアを整備します。



※公園西側には、区道沿いに園路を設けるほか、間口を上げた出入口を整備し、見通しの改善や安全な動線づくりに努めます。

» 草地広場

草地の種類は芝生に限定せず、修景池と一体で自然な風景をつくります。高木を配置し、木陰空間をつくります。広場は、平常時には憩いの場となり、イベント利用時にはにぎわいの場となります。災害時には一時的な避難場所として機能する空間とします。

広場には丘を設け、草地と水辺の広がりを感じられる視点場とします。

既存のヤシの木は保全します。としまえん時代の記憶を継承しながら、快適な緑地空間をつくります。



» 修景池

としまえんの波のプール跡地を利用し、風景式庭園の静かな水面をイメージした修景池をつくります。池の水は井戸水や雨水の利用を検討します。ろ過した水を循環させて常に流れをつくることで水質を維持します。

池の中央、草地広場の対岸に、練馬城址豊島園の音楽堂をモチーフとした休憩舎を配置します。



» サブエントランス

植栽豊かで静かな空間とします。サブエントランスから、園内に進むにつれて視界が開け、空間の広がりを感じるつくりとします。



樹林エリア／斜面林エリア（エリア⑤）

樹林エリアは近隣へ配慮しながら豊かな樹林を育成し、緑陰や防火、生物多様性の保全などの機能を発揮します。

※図とパースはイメージです。



》 樹林エリアの機能

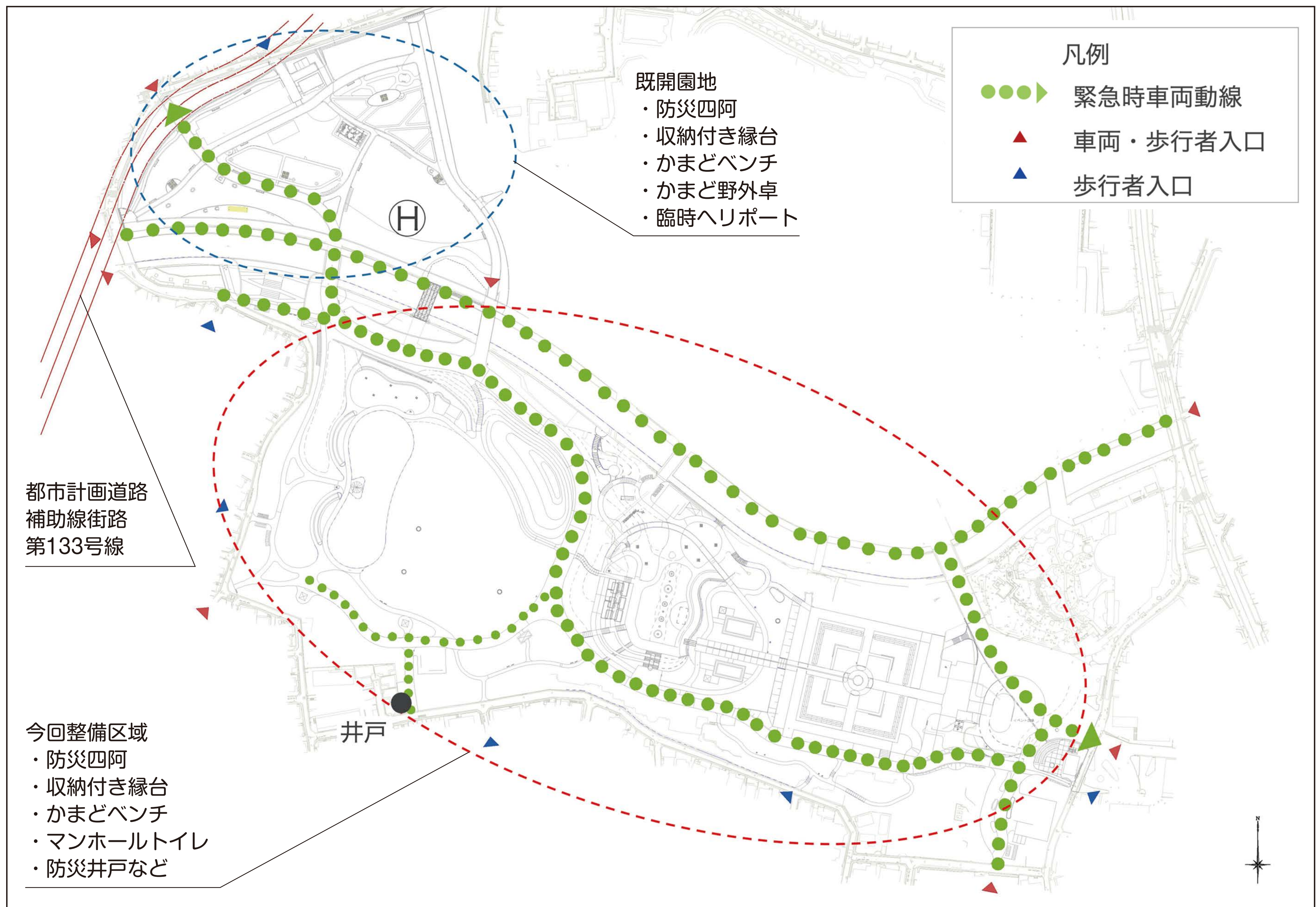
防犯のため見通しを確保しつつ、近隣のプライバシーへ配慮した遮蔽機能を持たせた植栽密度とします。
また、防火性の高い樹種を外周に配置することで防火樹林帯を形成し、火災発生時の延焼防止機能を持たせます。

》 斜面林

斜面林エリアは自然更新による在来種主体で、生物多様性の基盤を形成しています。原則保全とし、崖線の地形と自然な植生の樹林を残します。
全体として虫や鳥の食餌木や棲みかとなる既存樹木を保全しつつ、良好な樹林環境を整えます。

防災計画

計画地は震災時火災における避難場所に指定されています。避難有効面積93,223㎡、避難計画人口64,702人です。



》 動線の確保

避難に使える広場、複数の出入口、緊急車両が通行できる動線を確保します。

》 防災設備の備え

防災トイレ、電源、給水、防災井戸、照明などの機能を防災施設や備品として備えます。

石神井川遊びエリア(エリア⑥)

※図とパースはイメージです。

石神井川沿いに親水護岸を設け、川の流れや川風を感じながら歩き、水に近づき、生き物を観察できる水辺空間をつくります。散策・休憩が連続する、練馬城址公園らしい水辺の体験の場とします。

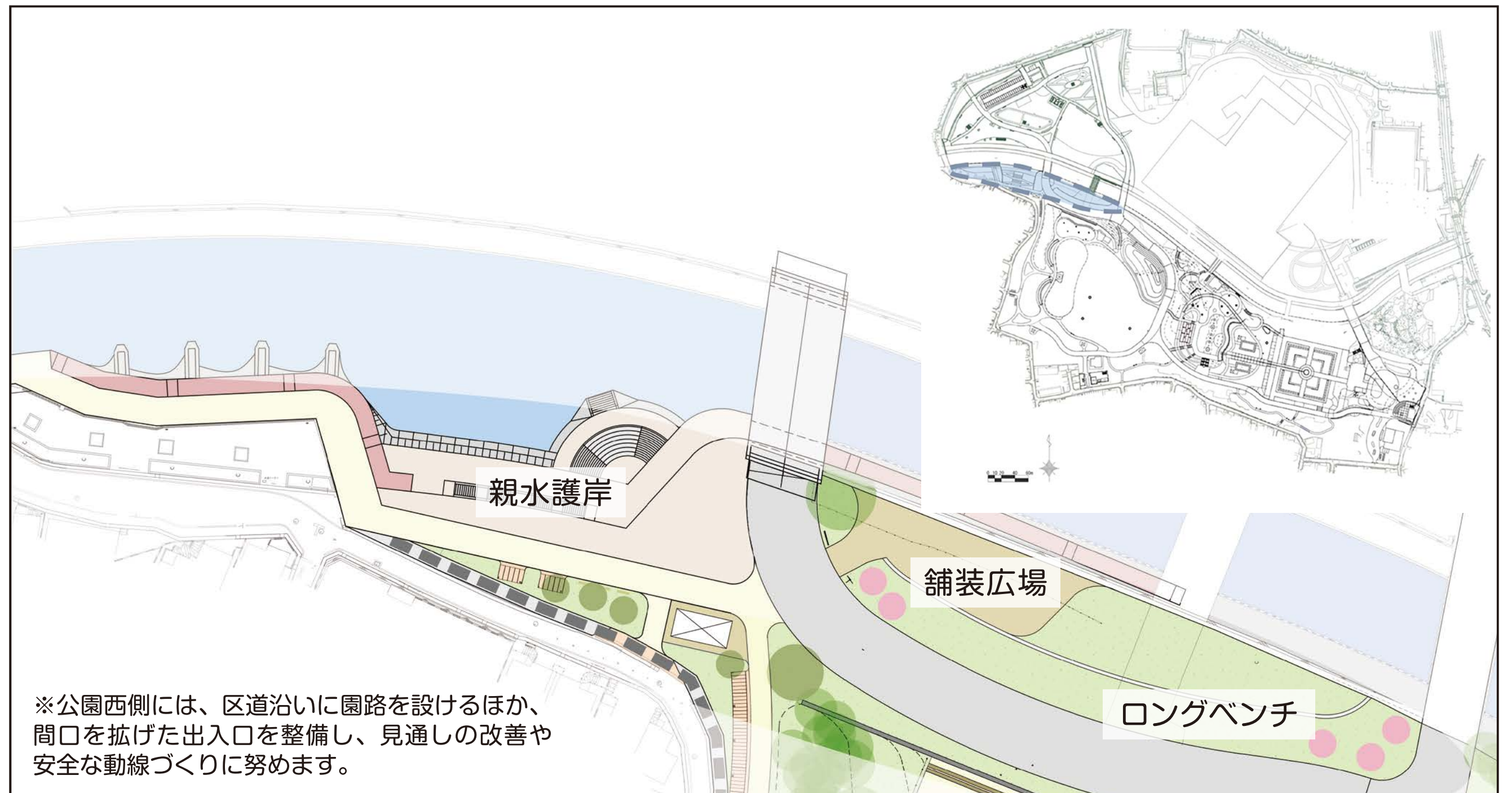
» 親水護岸

地形の成り立ちや人の生活との関係の深さから、石神井川に近づくことのできる親水護岸を設けます。

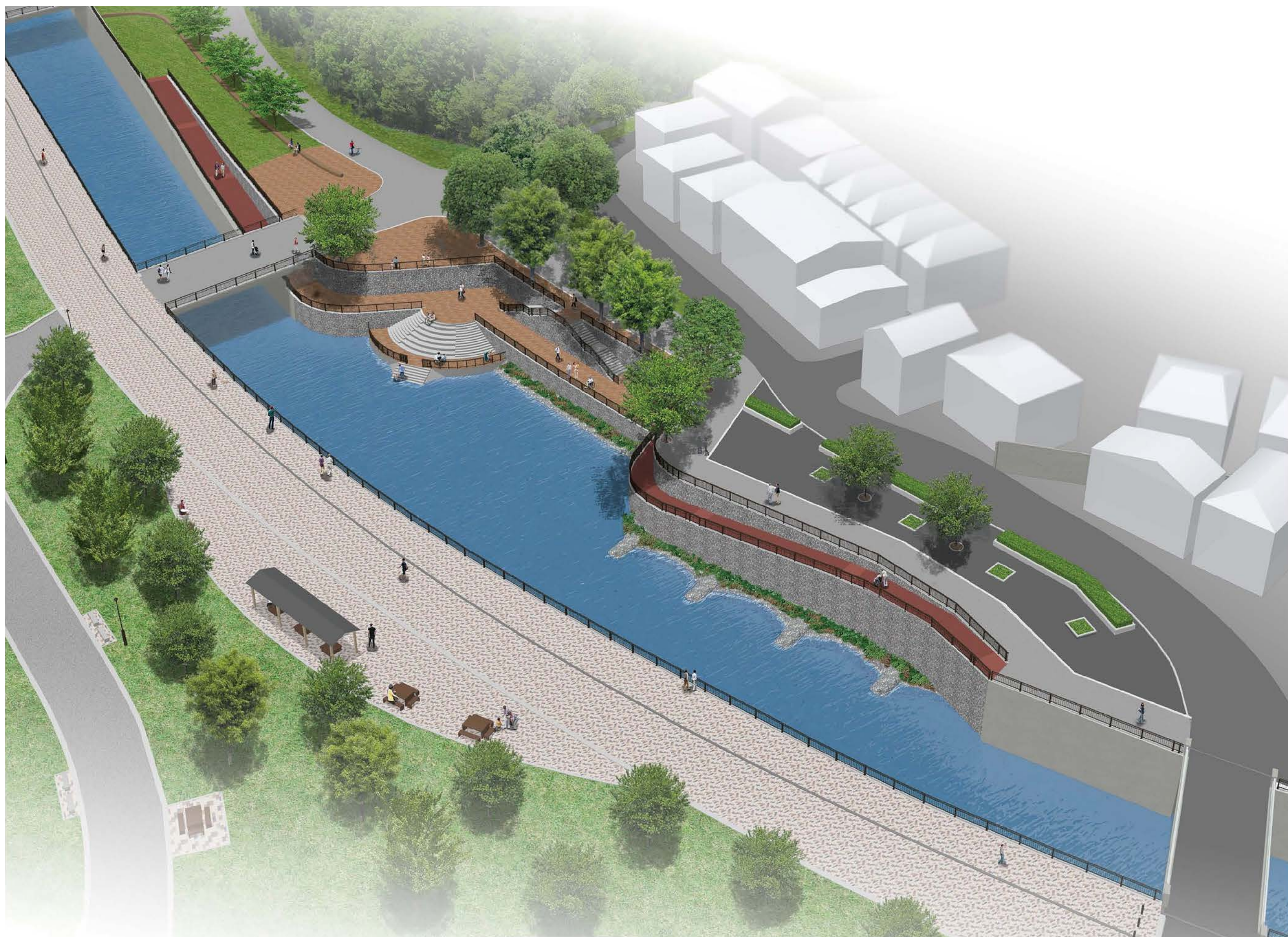
» ロングベンチ・桜並木

川沿いに舗装の小広場を設けます。
ロングベンチを配置し、水辺を眺めながら散策や休憩に利用できる場とします。

サクラを植栽し、木陰と季節感のある散策路をつくります。



» 親水護岸のイメージ



» 水際テラス

川面に向かって階段を設けることで、現在よりも水に近づくことができる空間とします。石神井川を身近に感じ、生き物や水辺環境への関心を育みます。階段の一部をベンチとし、水に親しむ休憩スペースとしても活用します。

» 親水広場

水に近い場所で休憩や滞留ができる場所とします。
階段とスロープで誰でもアクセスできるつくりとします。

» 水位の考え方

水際テラスや親水広場は平常時や冠水時の水位、冠水の頻度を踏まえた高さ設定とし、安全に水に近づくことのできるつくりとします。



植栽計画

歴史を伝える樹木を保全しながら、公園全体の質の向上、持続可能な緑地環境の形成を目指します。

》現在の状況

公園内に古くから存在するアカマツやとしまえん時代に植えられたヤシの木などが現存します。



》植栽計画の考え方

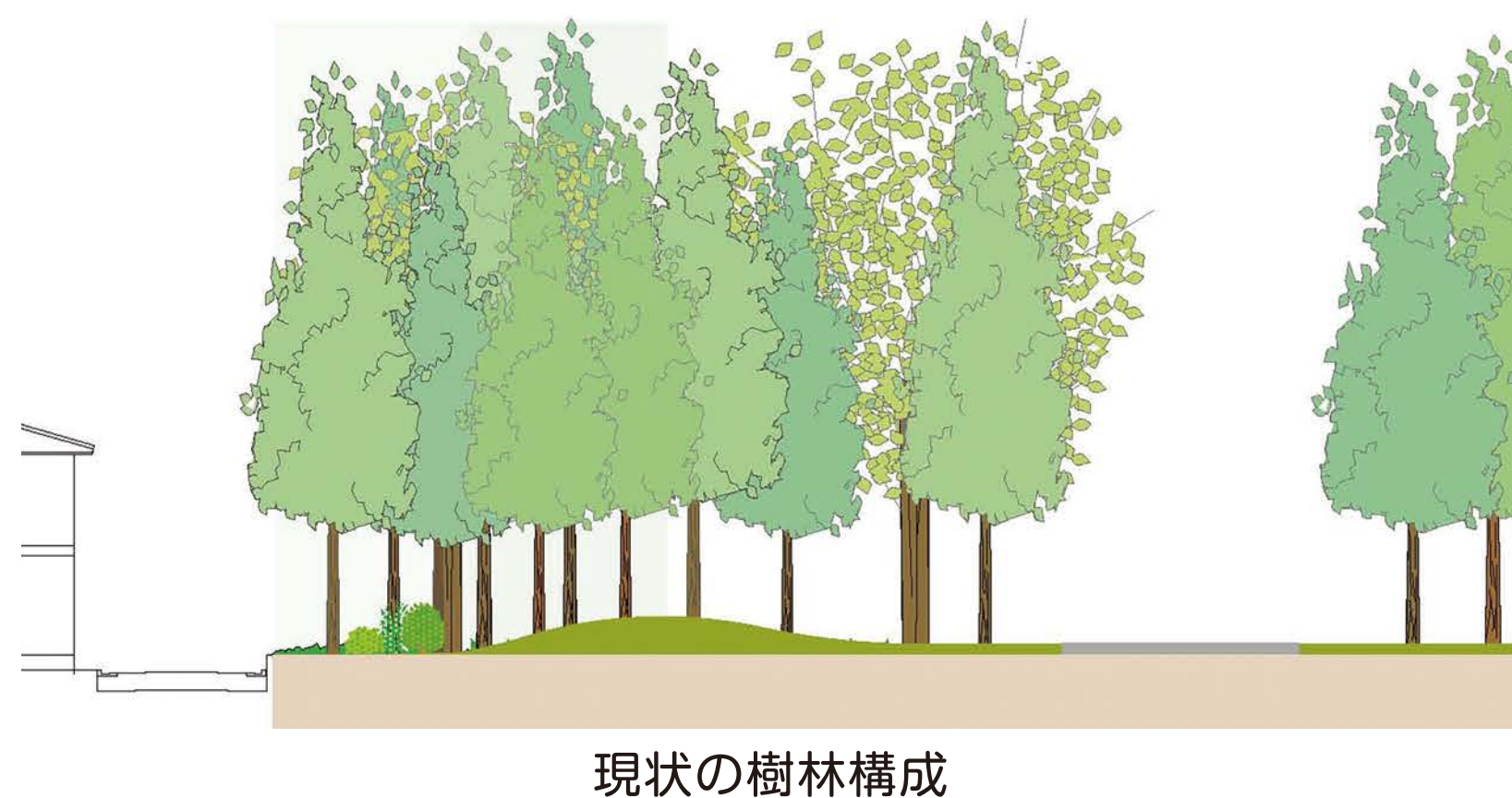
- 象徴的な既存樹木は保全に努め、歴史の継承をします。
- 生態系に影響を及ぼす外来種及び枯死と判断される樹木は伐採します。
- 生きものが利用する樹木（オオムラサキ（チョウ）が育つエノキなど）は保全し、生態系に配慮します。
- 公園内には樹木密度の高い外周部からの移植や新植を行い、木陰空間をつくります。
- 在来種を基本とした多様な樹種を配置します。
- 季節感のある景観をつくります。

》外周緑地の整備・管理の考え方

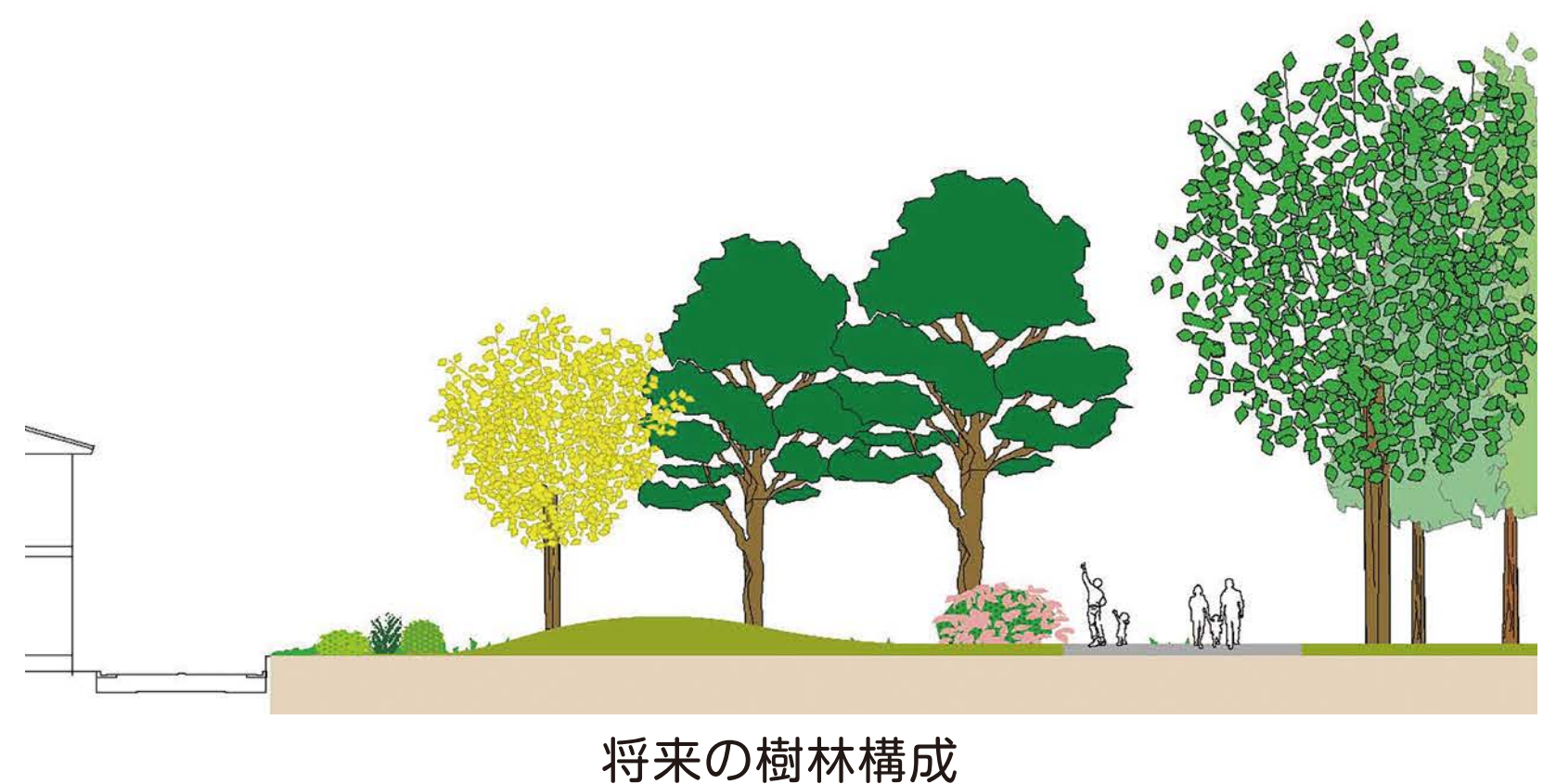
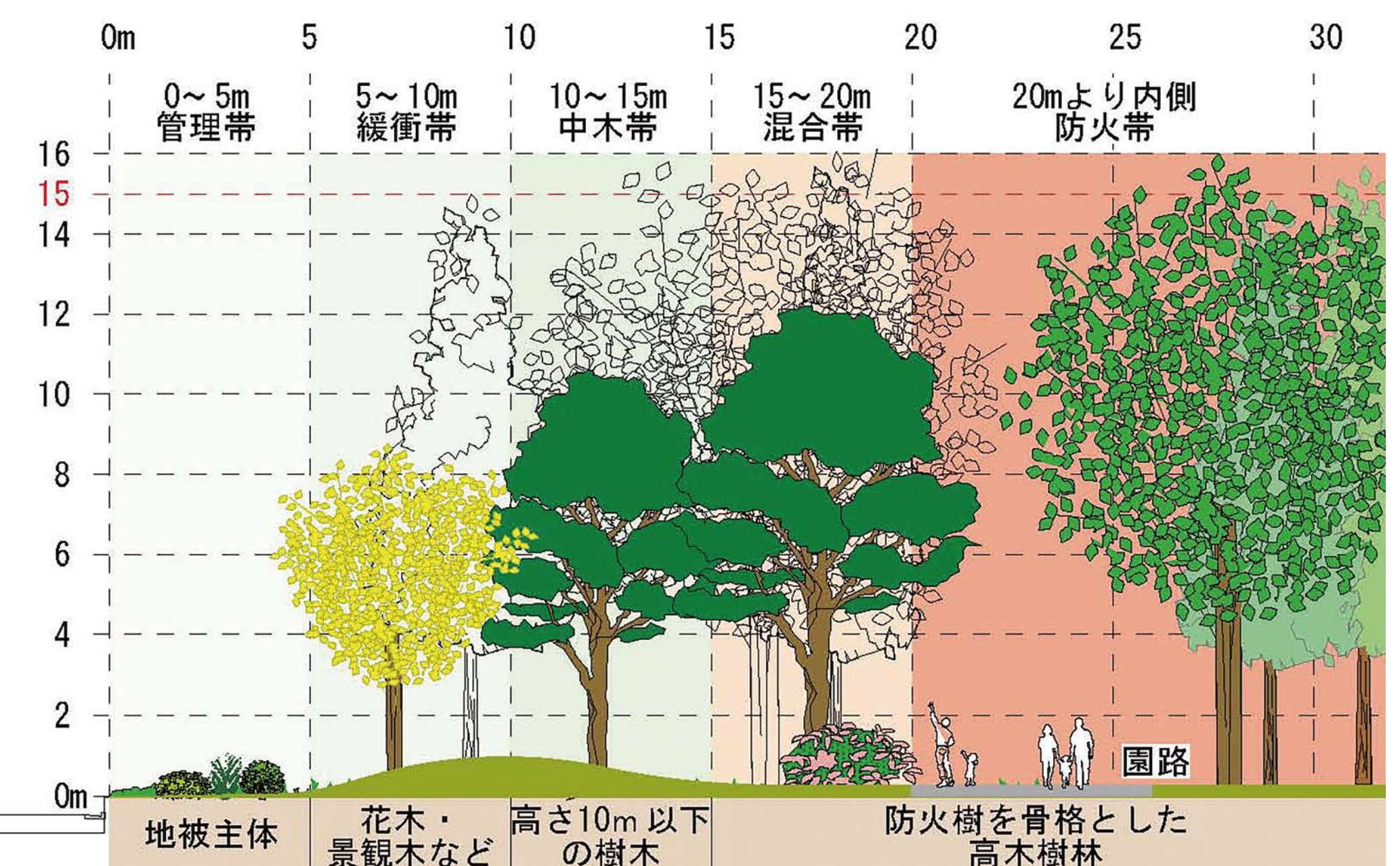
課題 倒木のリスクや落葉による住民生活への影響

既存の高木は可能な限り、整備時にセットバックします。
落ち葉の影響を考慮し、敷地境界から15m以上内側に高木を配置します。
防火樹林の機能を持たせるため、敷地境界から20m以降を防火機能の高い樹木を配置します。

R41 (30年後)



現状の樹林構成



将来の樹林構成

現状

支障木を伐木し、高木を可能な限り、整備時にセットバックします。

公園外への落葉を抑制するため高さを抑えた樹木を配置します。

公園内部は防火機能を持った樹木を植栽し、樹林とします。

常緑中木や花木で見通しがよく、季節を楽しむ景観をつくります。

将来

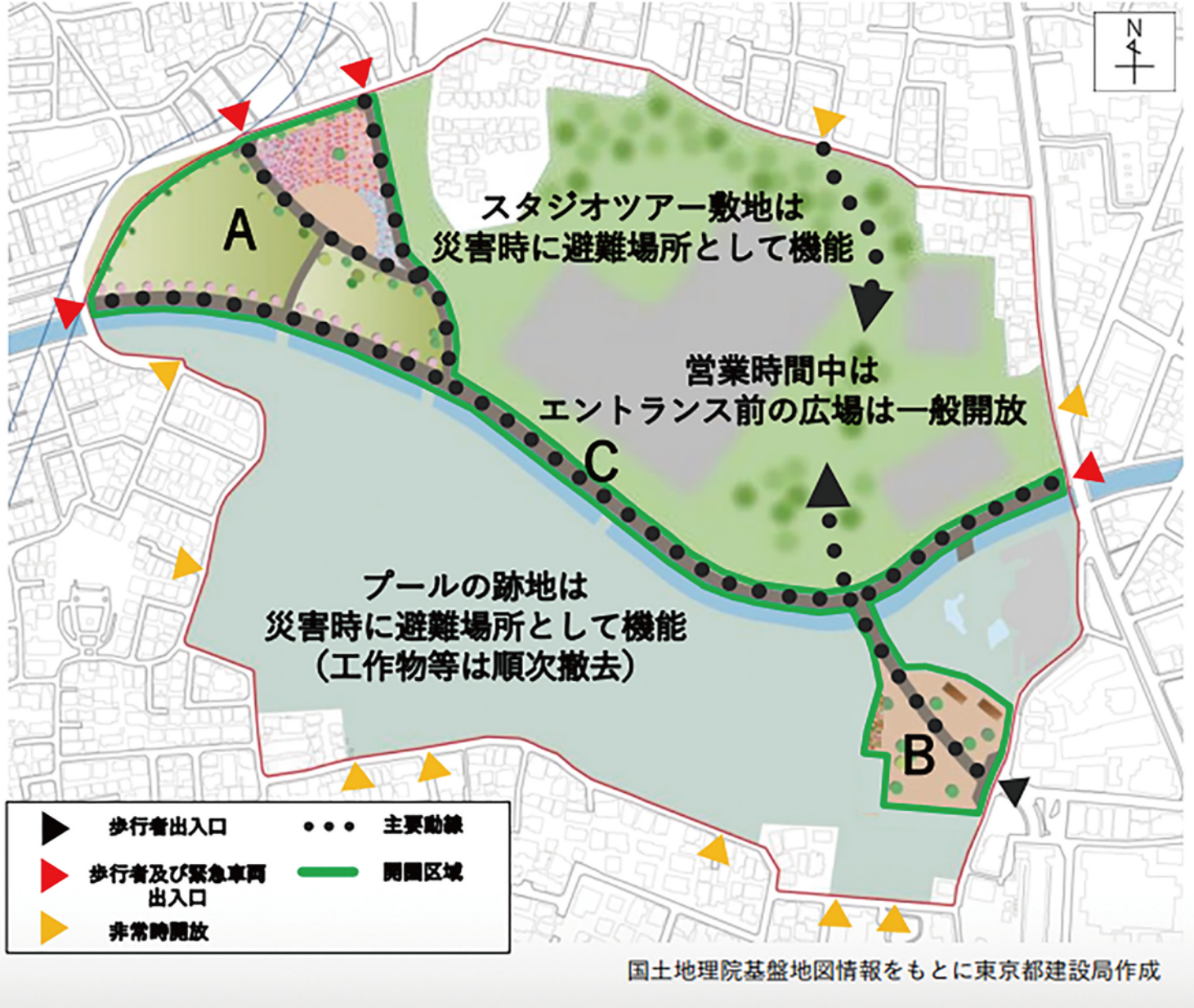
》段階的な公園整備のスケジュール

練馬城址公園は、整備が完了した区域を順次供用して、最終段階の公園像へ近づけていきます。開園後も、都立公園のマネジメントの考え方にに基づき、緑・水辺・防災・歴史・にぎわいを「使いながら育てる」公園として管理運営していきます。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度		最終段階 (全面開園)	
A 花のふれあいゾーン	整備工事			当初 開園							概 成		
B エントランス交流ゾーン	整備工事				(一部)	～順次開園～							
C 川辺の散策ゾーン	整備工事				(一部)	～順次開園～							
D 人々を繋げ 歴史を伝えるゾーン	工作物等は順次撤去			整備工事	～順次開園～								
E にぎわい アクティビティゾーン	整備工事										整備工事		開園
民間事業者 スタジオツアー敷地	整備工事												

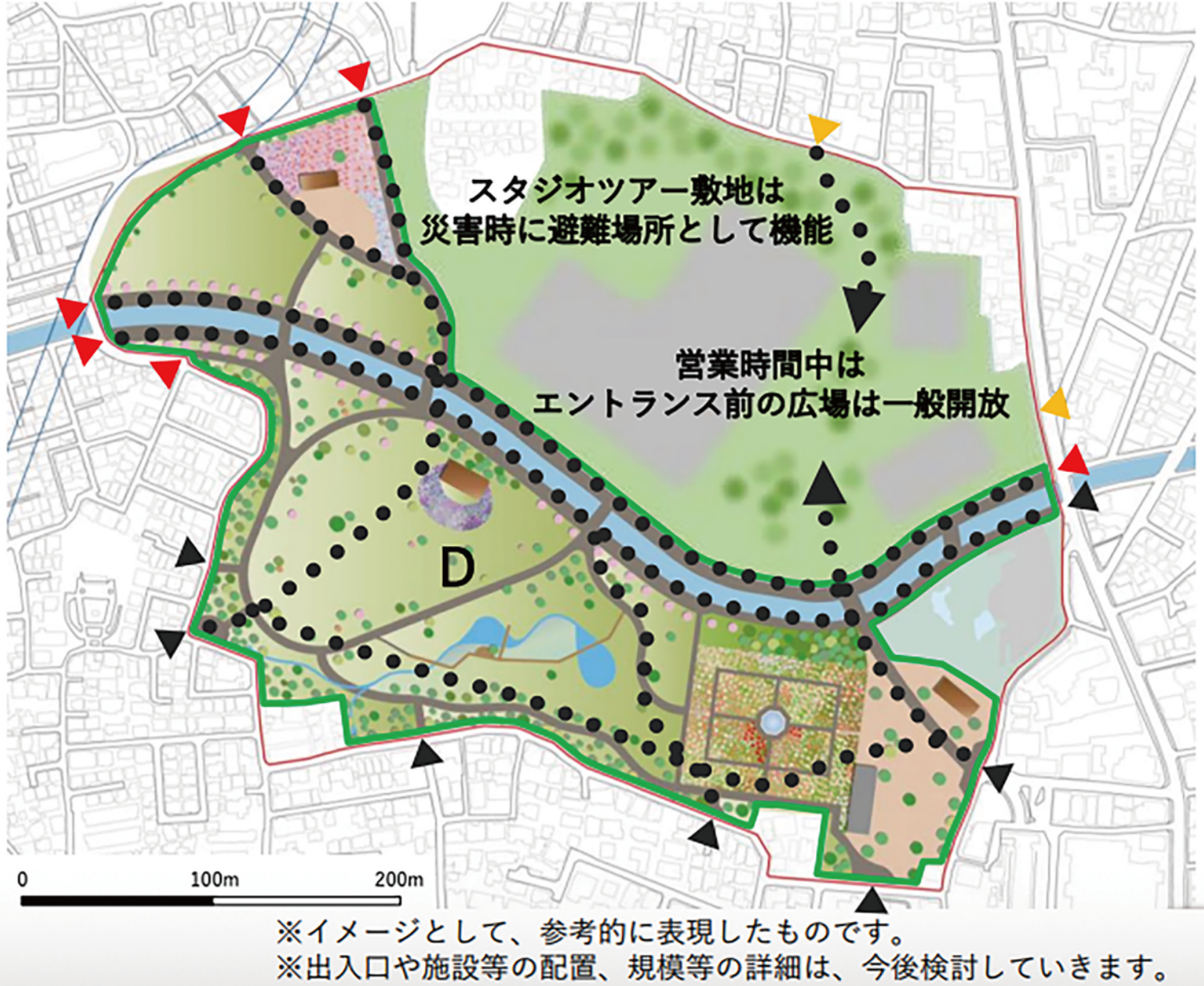
【当初開園】令和5年度

- A、B、Cの3つのゾーンが開園し、広がりのある緑の空間、川に親しむ散策路、人々が集い交流を生む広場空間等が確保され、公園としての機能を発現
- 東西南北から避難できる出入口及び避難場所を確保
※工事中も避難場所として機能
- スタジオツアー敷地は、緑の空間の確保、広場の一般開放、防災用の備蓄など、都立公園と一体的に機能を発現



【概成】令和11年度

- Dのゾーンが順次開園し、「としまえん」や「練馬城址豊島園」の歴史を伝える場や、災害時の避難場所としての機能が拡充
- 避難・活動場所ともなるオープンスペースを拡大
- 開放的な草地の広場と、水遊びのできる空間を整備
- 公園とスタジオツアー敷地が一体となって、公園としての機能が充実



》段階的な公園のマネジメントプラン

練馬城址公園では、将来を見据え、公園の魅力や防災機能を高めるとともに、水と緑、歴史を活かした公園づくりを進めます。地域や民間事業者と連携しながら、多くの人に親しまれる公園を目指します。

維持管理のポイント

- 樹木や雑木林を健全に育て、豊かな緑を守ります。
- 花畑や桜並木を適切に管理し、四季を感じられる景観を維持します。
- 園路や施設、防災設備を定期点検し、安全・安心で快適な公園を保ちます。

運営管理のポイント

- 自然や歴史を活かした体験・学びの場をつくります。
- イベントを通じてにぎわいと交流を生み出します。
- 地域や民間事業者と協力し、みんなで育てる公園を目指します。

安全・安心な公園への取組

- 防災施設の点検や訓練を行い、災害に備えます。
- 樹木や遊具、施設を定期的に点検し、安全性を確保します。
- 快適に利用できる環境づくりと、適切な維持管理を行います。

